国語科

教科名	国語	科目名	現代文
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	精選現代文B(筑摩書房)	副教材等	新版四訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 国語を正確に理解し、的確に表現する能力を、さらに発展させる。
- (2) 言語感覚を磨き、思考力を伸ばし、伝え合う力を、いっそう高める。
- (3) 近代以降の様々な文章を読み、読書に親しむ態度を身につけ、言語文化への関心をより高める。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。
- (2) 文学的な文章について、人物、情景、心象などを的確にとらえ、表現を味わう。
- (3) 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。
- (4) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。
- (5) 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現する。
- (6) 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てる。
- (7) 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを身に付ける。
- (8) 常用漢字の読み書きに習熟し、表外漢字に慣れる。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、自分の考えを持ち、積極的に発言、表現する姿勢を持つこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、日常の言語活動に利用すること。
- (3) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確に捉えること。
- (4) 文学的文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わうこと。
- (5) 様々な文章を読んで人物、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させるとともに興味関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。
- (6) 課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

(1) 「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

(2) 「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

(3) 「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

(4) 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

⑤ 「知識・理解」【知】

近代以降の様々な文章の読解を通して、語彙・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤ 評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- ① 学習活動に対する取組姿勢
- ② 提出された課題の内容
- ③ 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	評論	虚ろなまなざし(岡 真理)	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
5	小説	藤野先生(魯 迅)	表現に留意し、内容を正しく理解できたか。 【読】
6	評論	陰翳礼賛(谷崎潤一郎)	語彙や社会的背景などについての知識を得ることができたか。 【知】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。 【話】【書】
前期中間考査			
7	小説	舞姫(森鷗外)	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
8	小説	* 舞姫(続)	表現に留意し、内容を正しく理解できたか。 【読】
9	小説		語彙や社会的背景などについての知識を得ることができたか。 【知】
10	評論	死と向き合う(清水哲郎) ポスト・プライバシー(阪本俊生)	読解をもとに読みとった内容を正しく表現できたか。 【話】【書】
前期期末考査			
11	問題演習	大学入試に向けた問題研究(センター試験型)	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。 【関】
12	問題演習	大学入試に向けた問題研究(記述型)	表現に留意し、内容を正しく理解できたか。 【読】
1	問題演習	大学入試に向けた問題研究(記述型)	語彙や社会的背景などについての知識を得ることができたか。 【知】
後期中間考査			
			入試に対応できる総合的な知識を身につけることができたか。 【知】

国語科

教科名	国語	科目名	古典研究
科目の目標	古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	4単位	履修形態	必修
教科書	高等学校 古典B（大修館書店） 他 自主教材	副教材等	要説文語文法（日栄社） 漢文必携（桐原書店）

①学習の目標

- ① 文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、人間・社会・自然などについての考えを深める。
- ② 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を正しく理解し、その特有の表現を味わう。
- ③ 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- ① 古典として、作品は古文と漢文の両方から取り上げる。
- ② 音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
- ③ 「ことば」についての理解を定着させるため、文法事項や語彙・語法についても十分に理解する。
- ④ まとまった文章読解に努め、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを表現に即して読み味わう。
- ⑤ 古典常識にも理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- ⑥ 作品の成立や評価についても探求し、文学史の中での位置付けや意義をつかむ。
- ⑦ 文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- ⑧ 教材は教科書を中心に、まとまった文章読解ができるようプリント等で適宜補う。
- ⑨ 学習の成果を確かめるため、適宜問題演習を取り入れる。

③学習に当たっての留意点

- ① 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。
- ② 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- ③ 作品理解を深めるためにも、音読・朗読ができるよう、文章を読み込んでおくこと。
- ④ 授業では、予習時の不明点の解明と共に、現代文と意味・用法の異なる古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- ⑤ 正しい読解をもとに、自分が感じたことや考えたことを文章にまとめたり、発表できるよう復習を怠らないこと。文法事項の学習に当たっては各自補助教材を活用し、習熟と定着に努めること。
- ⑥ 小テスト等にも意欲的に臨み、課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

- ① 「関心・意欲・態度」【関】
自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。
- ② 「読むこと」【読】
表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。
- ③ 「知識・理解」【知】
古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- ① 学習活動に対する取組姿勢
- ② 提出された課題の内容
- ③ 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	古文 物語を読む	『堤中納言物語』虫めづる姫君 『大鏡』雲林院の菩提講 花山院の出家 肝だめし (三船の才)	物語やその背景について関心をもち、理解を深めようとしているか【関】 地の文、会話文、和歌のつながりを把握して、作者の心情を読み【読】 とることができたか。 語彙・文法・敬語法・和歌の修辞技法について知識を深めること【知】 ができたか。
5	漢文 小説をよむ	『搜神記』定伯売鬼 『続玄怪録』定婚店	中国の小説を読み味わい、その特色に関心を持ち、高めることが【関】 できたか。 登場人物の人間像と心理の動きを読みとることができたか。【読】 漢文句法・語法等を理解しているか。【知】
6			前期中間考査
	古文 日記を読む	『蜻蛉日記』町の小路の女 『和泉式部日記』薫る香に 『紫式部日記』和泉式部と清少納言 (古典文学史のまとめ)	日記文学の多様な側面や作者について関心をもち、理解を深め【関】 ようとしているか。 地の文、会話文、和歌のつながりを把握して、作者の心情を読み【読】 とることができたか。 語彙・文法・敬語法・和歌の修辞技法について知識を深めたか。【知】
7	古文 源氏物語をよむ	『源氏物語』葵・須磨・若菜上 長恨歌 (翼をならべ、枝をかはさむ) (七月七日 梨花一枝)	『源氏物語』の特色を理解し、内容への関心を高めることができ【関】 たか。 登場人物の言動や心情、情景を読みとることができたか。【読】 読みとった内容を正しく表現できたか。 語彙・文法・敬語法・和歌の修辞技法を理解できたか。【知】
8	漢文 文章を読む	日本の漢詩文 所争在弓箭	日本の漢詩文の特徴、漢文と日本文化との関連を理解しようと【関】 しているか。 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【読】 漢文句法・語彙や日本の漢詩文について理解できたか。【知】
9	漢文 史伝を読む	『史記』荊軻	前期期末考査
			『史記』の文章に親しみ、繰り返し音読するなどして、読み味わう【関】 ことができたか。 長い文章を読んで、大意・話の展開を正確に理解できたか。【読】 漢文句法・語法等を理解しているか。【知】
10	古文 評論をよむ	やまと歌「古今和歌集仮名序」 おもて歌「無名抄」 連歌は心より起こりて『連理秘抄』 因果の花「風姿花伝」 沓冠の折句「正徹物語」	俳諧、和歌や能などの文化に親しみ、自身の考えを深めようと【関】 したか。 評論に示された筆者の主張を読みとることができたか。【読】 本文の構成を把握し、論の展開を理解できたか。 歌論に頻出の用語や、文学史的事項などを理解できたか。【知】
11	漢文 文章をよむ	師説 春夜宴桃李園序	筆者がこの文章を書いた意図を理解しようとしているか。【関】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【読】 漢文句法・語彙や唐宋八大家について理解できたか。【知】
			後期中間考査
12	問題演習	大学入試に向けた演習 (センター試験向け問題集を使用)	入試に対応できる総合的な知識を身につけることができたか。【知】
1			

※ 各期とも、古文単語・古典文法、漢文句形・漢文語彙の学習を進め、小テストを実施する。

国語科

教科名	国語科	科目名	古典
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広し、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	理系
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書	古典B 古文編/漢文編 (大修館書店)	副教材等	新・要説文語法(日栄社)、漢文必携 (桐原書店)、日々古文単語帳365(駿台文庫)

①学習の目標

- (1) 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読みとり、ものの見方、感じ方考え方を豊かにする。
- (2) 文章や作品の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。
- (3) 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- (3) まとまった文章理解につとめ、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を表現に即して読み、味わう。
- (4) 古典常識にも理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- (5) 作品の成立や評価についても探求し、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (6) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明と共に、現代文と意味・用法の異なる古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題等は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

(1) 「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

(2) 「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

(3) 「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

(4) 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

(5) 「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを旨とする。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など（観点項目を記入）
4	古文 日記	『更級日記』 あこがれ 源氏の五十余巻	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】
5	漢文 史伝	『史記』「刺客列伝」 風蕭々として易水寒し 図窮まりて七首見る	辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】 史伝に親しみ、作中人物像に迫ることができたか。【知】
6	古文 物語	『源氏物語』 若紫	場面を理解し、含意を汲み取ることができたか。【知】 【前期中間考査】
7	漢文 文章 古文 物語	『唐宋八家文読本』 師説 『大鏡』 三船の才 鶯宿梅	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】 辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】
8	古文 日記	『蜻蛉日記』 町の小路の女 『紫式部日記』 和泉式部と清少納言	作中人物の心理を捉えることができたか。【知】 漢文に親しみ、異なる文化の差異に着目できたか。【知】 【前期期末考査】
9	漢文 思想	『韓非子』 侵官之害 処知則難 母之愛子也 『墨子』 兼相愛	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】 辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】
10	古文 物語	『源氏物語』 須磨	古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】 主題を捉え、筆者の主張をつかむことができたか。【知】
11	古文 評論	『無名抄』 おもて歌 『玉勝間』 師の説になづまざること	中国古代の思想に触れ、視野を広げることができたか。【知】 【後期中間考査】
12		大学入試に向けた演習 (別途センター試験向け問題集を使用する)	
1			・各期とも、古文単語、古典文法、漢文句形、漢文語彙・文学史等の学習を進め、小テストを実施する。

数学科

教科名	数学	科目名	数学研究 I
科目の目標	問題演習を通して、数学 I・A で学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。		
履修学年	3年	類型	文型
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	数学 I・数学 A (数研出版)	副教材等	リンク数学演習 I・A+ II・B a+b+c+d (数研出版)

①学習の目標

問題演習を通して数 I・A の総復習を行い、実力を養成する。

②学習内容と授業の進め方

問題集で演習を行う。教材が基礎と応用に分かれているので基礎を一通り演習した後、応用の演習を行う。学習内容は以下の授業計画を参考にすること。ただし、内容の順序については実状に合わせて変更する場合もある。

③学習に当たっての留意点

- (1) 1, 2年 で学習した事項を単に復習するだけでなく、それを応用して種々の問題を解くこと。
- (2) 問題演習が中心となるが、毎日の予習、復習も大切であり、進路実現のためにも自学自習の姿勢を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的見方や考え方
【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、学習活動への参加の意欲・態度などで総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4	approach 1 数と式	・式の展開、因数分解、根号を含む計算、1次不等式 ・集合、命題の真偽、必要条件・十分条件、逆・対偶	・数学 I・A の問題演習を通して既習の知識を再確認し問題解決に活用できる。【関】 ・問題演習を通して数学的な事象を考察できる。【思】 ・様々な問題を通して的確に処理できる。【技】 ・演習を通して高校数学の知識を身 <div style="text-align: center; font-weight: bold;">前期中間考査</div>	
	approach 2 2次関数	・グラフ、平行移動・対称移動、最大・最小、決定 ・2次方程式、放物線と直線の共有点、2次不等式		
5	approach 3 図形と計量	・直角三角形と三角比、相互関係、正弦・余弦定理 ・三角形・多角形の面積、空間図形		
	approach 4 データの分析	・データの代表値、データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差、相関係数		
6	approach 5 場合の数と確率	・場合の数、順列、組み合わせの基本、いろいろな順列、組合せ ・確率とその基本性質、反復試行の確率		
	approach 6 図形の性質	・5心、チェバ・メネラウスの定理 円に内接する四角形 ・円と直線、作図、2直線、2平面のなす角、多面体		
7	approach 7 整数の性質	・約数と倍数、整数の割り算、1次不定方程式、n進法		
8	basic 1 数と式	・因数分解、絶対値を含む不等式 ・必要条件・十分条件の判定、背理法による証明		
9	basic 2 2次関数	・グラフが動く関数の最大最小、最大最小の応用 ・ある区間で定符号となる条件、解の存在範囲		前期期末考査
	basic 3 図形と計量	・三角形と正弦の比、測量への応用 ・三角形の外接円、内接円、円に内接する四角形		
10	basic 4 データの分析	・データ全体の平均値・分散、2つの変量の相関関係		
	basic 5 場合の数と確率	・0を含む数の順列、組分けの方法の数 ・最短経路の数、3個のさいころの目の和・積 ・反復試行と点の移動、玉の取り出し方を変えたときの確率		
11	basic 6 図形の性質	・三角形の傍接円、4点が同一円周上にあることの証明 ・外接する2円の共通接線、正多面体の体積	後期中間考査	
	basic 7 整数の性質	・式の値から整数の決定、最大公約数と最小公倍数の性質 ・整数の割り算と余り、2次不定方程式の整数解		
12	センター演習	センター対策問題集		
1	問題演習	数学 I A 2次対策問題演習		

数学科

教科名	数学	科目名	数学研究Ⅱ
科目の目標	問題演習を通して、数学Ⅱ・Bで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。		
履修学年	3年	類型	文型
単位数	2単位	履修形態	選択履修
教科書	数学Ⅱ・数学B(数研出版)	副教材等	リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B a+b+c+d (数研出版)

①学習の目標

問題演習を通して数Ⅱ・Bの総復習を行い、実力を養成する。

②学習内容と授業の進め方

問題集で演習を行う。教材が基礎と応用に分かれているので基礎を一通り演習した後、応用の演習を行う。学習内容は以下の授業計画を参考にすること。ただし、内容の順序については実状に合わせて変更する場合もある。

③学習に当たっての留意点

- (1) 2年で学習した事項を単に復習するだけでなく、それを応用して種々の問題を解くこと。
- (2) 問題演習が中心となるが、毎日の予習、復習も大切であり、進路実現のためにも自学自習の姿勢を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的見方や考え方
【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、学習活動への参加の意欲・態度などで総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4	approach 15 数列	・等差数列・等比数列、いろいろな数列 ・漸化式と数列、数学的帰納法	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通して既習の知識を再確認し問題解決に活用できる。【関】 ・問題演習を通して数学的な事象を考察できる。【思】 ・様々な問題を通して的確に処理できる。【技】 ・演習を通して高校数学の知識を身に	
	approach 14 ベクトル	・ベクトルの基本、内積 ・位置ベクトル、ベクトルの応用、空間座標		
	approach 13 微分法と積分法	・導関数、接線、最大最小、方程式・不等式への応用 ・不定積分、定積分 ・面積		
5	approach 12 指数関数・対数関数	・指数の拡張、指数関数 ・対数とその性質、対数関数		
	approach 11 三角関数	・弧度法、一般角の三角関数 ・加法定理		
	approach 10 図形と方程式	・点と直線、円の方程式、円と直線 ・二つの円、軌跡、領域		
6	approach 9 複素数と方程式	・複素数、解と係数の関係、剰余・因数定理 ・高次方程式		前期中間考査
	approach 8 式と証明	・二項定理、整式の割り算、分数式、恒等式 ・等式の証明、不等式の証明		
	basic 15 数列	・和の条件が与えられた等比数列 ・群数列 ・分数式で表される漸化式 ・数学的帰納法と倍数であることの証明		
8	basic 14 ベクトル	・交点の位置ベクトル ・終点Pが動く範囲の面積 ・座標空間内の三角形の面積 ・直線と平面の交点		前期期末考査
9	basic 13 微分法と積分法	・3次方程式の実数解の個数 ・定積分で表された関数 ・面積の条件から係数決定		
10	basic 12 指数関数・対数関数	・桁数、小数首位 ・極値から関数の係数決定		
	basic 11 三角関数	・三角方程式、不等式 ・三角関数の最大・最小		
	basic 10 図形と方程式	・線対称な点の座標 ・円外の点から引いた円の接線 ・三角形の重心の軌跡(連動形) ・領域と最大・最小		
11	basic 9 複素数と方程式	・整式の割り算の余りの決定、3次方程式の解と係数	後期中間考査	
	basic 8 式と証明	・多項展開式の係数、根号や絶対値を含む式の証明		
12	センター演習	センター対策問題集		
1	2次対策演習	数学ⅡB 2次対策問題演習		

数学科

教科名	数学	科目名	発展数学Ⅰ
科目の目標	問題演習を通して、数学Ⅰ・Aで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。		
履修学年	3年	類型	理系
単位数	3単位	履修形態	選択履修
教科書	数学Ⅰ・数学A(数研出版)	副教材等	リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B a+b+c+d (数研出版)

①学習の目標

問題演習を通して数Ⅰ・Aの総復習を行い、実力を養成する。

②学習内容と授業の進め方

問題集で演習を行う。教材が基礎と応用に分かれているので基礎を一通り演習した後、応用の演習を行う。学習内容は以下の授業計画を参考にすること。ただし、内容の順序については実状に合わせて変更する場合もある。

③学習に当たっての留意点

- (1) 1, 2年で学習した事項を単に復習するだけでなく、それを応用して種々の問題を解くこと。
- (2) 問題演習が中心となるが、毎日の予習、復習も大切であり、進路実現のためにも自学自習の姿勢を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的見方や考え方
【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、学習活動への参加の意欲・態度などで総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4	approach 1 数と式	・式の展開、因数分解、根号を含む計算、1次不等式 ・集合、命題の真偽、必要条件・十分条件、逆・対偶	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通して既習の知識を再確認し問題解決に活用できる。【関】 ・問題演習を通して数学的な事象を考察できる。【思】 ・様々な問題を通して的確に処理できる。【技】 ・演習を通して高校数学の知識を身 <div style="text-align: center;">前期中間考査</div>	
	approach 2 2次関数	・グラフ、平行移動・対称移動、最大・最小、決定 ・2次方程式、放物線と直線の共有点、2次不等式		
5	approach 3 図形と計量	・直角三角形と三角比、相互関係、正弦・余弦定理 ・三角形・多角形の面積、空間図形		
	approach 4 データの分析	・データの代表値、データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差、相関係数		
6	approach 5 場合の数と確率	・場合の数、順列、組み合わせの基本、いろいろな順列、組合せ ・確率とその基本性質、反復試行の確率		
	approach 6 図形の性質	・5心、チェバ・メネラウスの定理 円に内接する四角形 ・円と直線、作図、2直線、2平面のなす角、多面体		
7	approach 7 整数の性質	・約数と倍数、整数の割り算、1次不定方程式、n進法		
8	basic 1 数と式	・因数分解、絶対値を含む不等式 ・必要条件・十分条件の判定、背理法による証明		
9	basic 2 2次関数	・グラフが動く関数の最大最小、最大最小の応用 ・ある区間で定符号となる条件、解の存在範囲		前期期末考査
	basic 3 図形と計量	・三角形と正弦の比、測量への応用 ・三角形の外接円、内接円、円に内接する四角形		
10	basic 4 データの分析	・データ全体の平均値・分散、2つの変量の相関関係		
	basic 5 場合の数と確率	・0を含む数の順列、組分けの方法の数 ・最短経路の数、3個のさいころの目の和・積 ・反復試行と点の移動、玉の取り出し方を変えたときの確率		
11	basic 6 図形の性質	・三角形の傍接円、4点が同一円周上にあることの証明 ・外接する2円の共通接線、正多面体の体積	後期中間考査	
	basic 7 整数の性質	・式の値から整数の決定、最大公約数と最小公倍数の性質 ・整数の割り算と余り、2次不定方程式の整数解		
12	センター演習	センター対策問題集		
1	問題演習	数学ⅠA 2次対策問題演習		

数学科

教科名	数学	科目名	発展数学Ⅱ
科目の目標	問題演習を通して、数学Ⅱ・Bで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。		
履修学年	3年	類型	理型
単位数	3単位	履修形態	選択履修
教科書	数学Ⅱ・数学B(数研出版)	副教材等	リンク数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B a+b+c+d (数研出版)

①学習の目標

問題演習を通して数Ⅱ・Bの総復習を行い、実力を養成する。

②学習内容と授業の進め方

問題集で演習を行う。教材が基礎と応用に分かれているので基礎を一通り演習した後、応用の演習を行う。学習内容は以下の授業計画を参考にすること。ただし、内容の順序については実状に合わせて変更する場合もある。

③学習に当たっての留意点

- (1) 2年で学習した事項を単に復習するだけでなく、それを応用して種々の問題を解くこと。
- (2) 問題演習が中心となるが、毎日の予習、復習も大切であり、進路実現のためにも自学自習の姿勢を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的見方や考え方
【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、学習活動への参加の意欲・態度などで総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	approach 15 数列	・等差数列・等比数列、いろいろな数列 ・漸化式と数列、数学的帰納法	<p style="text-align: center;">前期中間考査</p> <p style="text-align: center;">前期期末考査</p> <p style="text-align: center;">後期中間考査</p>
	approach 14 ベクトル	・ベクトルの基本、内積 ・位置ベクトル、ベクトルの応用、空間座標	
	approach 13 微分法と積分法	・導関数、接線、最大最小、方程式・不等式への応用 ・不定積分、定積分 ・面積	
5	approach 12 指数関数・対数関数	・指数の拡張、指数関数 ・対数とその性質、対数関数	
	approach 11 三角関数	・弧度法、一般角の三角関数 ・加法定理	
	approach 10 図形と方程式	・点と直線、円の方程式、円と直線 ・二つの円、軌跡、領域	
6	approach 9 複素数と方程式	・複素数、解と係数の関係、剰余・因数定理 高次方程式	
	approach 8 式と証明	・二項定理、整式の割り算、分数式、恒等式 ・等式の証明、不等式の証明	
7	basic 15 数列	・和の条件が与えられた等比数列 ・群数列 ・分数式で表される漸化式 ・数学的帰納法と倍数であることの証明	
8	basic 14 ベクトル	・交点の位置ベクトル ・終点Pが動く範囲の面積 ・座標空間内の三角形の面積 ・直線と平面の交点	
9	basic 13 微分法と積分法	・3次方程式の実数解の個数 ・定積分で表された関数 ・面積の条件から係数決定	
10	basic 12 指数関数・対数関数	・桁数、小数首位 ・極値から関数の係数決定	
	basic 11 三角関数	・三角方程式、不等式 ・三角関数の最大・最小	
	basic 10 図形と方程式	・線対称な点の座標 ・円外の点から引いた円の接線 ・三角形の重心の軌跡(連動形) ・領域と最大・最小	
	basic 9 複素数と方程式	・整式の割り算の余りの決定、3次方程式の解と係数	
11	basic 8 式と証明	・多項展開式の係数、根号や絶対値を含む式の証明	
12	センター演習	センター対策問題集	
1	2次対策演習	数学ⅡB 2次対策問題演習	

数学科

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ
科目の目標	知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	理型・医進型
単位数	数学Ⅲ6単位	履修形態	選択履修
教科書	数学Ⅲ(数研出版)	副教材等	4STEP数学Ⅲ(数研出版)

①学習の目標

- (1) 極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を身につける。
- (2) 複素数平面、式と曲線について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共にそれらを積極的に活用する態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 複素数を複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。
- (2) 「式と曲線」では、二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。
- (3) 「極限」では、微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。
- (4) 「微分法」では、色々な関数についての微分法を理解し、それを用いて関数値の増減やグラフの凹凸等を考察し、微分法の有用性を認識するとともに具体的な事象の考察に活用できるようにする。
- (5) 「積分法」では、いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積等に活用できるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 一つの章・分野からの視点のみならず、1・2年次で学習した事項との関連性や他分野との融合に留意し問題解決に向け多面的な分析・処理ができるように意識すること。
- (2) 教科書以外の発展的な内容についても学習するが、数学Ⅲの分野については遅くとも9月中に終了する計画を立てて進める。
- (3) 授業は予習・復習を前提に行われるので、毎日家庭学習の時間を確保するとともに、進路実現を意識し自学自習の習慣を身につけること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。

(2) 数学的見方や考え方

【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。

(3) 表現・処理

【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。

(4) 知識・理解

【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査、単元テスト、提出物の内容、学習活動への「関心・意欲・態度」、数学的な「見方・考え方」、「表現・処理」及び「知識・理解」の観点から総合的に評価する。

⑥授業計画			
月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
	数学Ⅲ 第1章	複素数平面	・2年時に終了
	数学Ⅲ 第2章	式と曲線	
4	1. 2次曲線 2. 媒介変数表示と極座標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲線を表す方程式が $y=f(x)$ の形に変形できる場合にはその曲線を図で表すことができることを理解する。 ・放物線の幾何学的な定義から導いた方程式が既習の放物線の方程式と同じものであることを理解する。また、放物線の焦点・準線の性質について理解する。 ・楕円の定義に従って、その方程式の標準形を求める。 ・双曲線の定義に従って、その方程式の標準形を求める。また、x、yについての2次方程式で表される放物線、楕円、双曲線を総称して2次曲線ということを知る。 ・放物線、楕円、双曲線と直線との関係について理解する。 ・図形の平行移動と方程式の関係を理解し、2次曲線とその離心率の関係を理解する。 ・極座標を導入し、これまでの2次曲線などを極座標を利用して表示できるようにする。 ・いろいろな曲線をかいて、直交座標や極座標についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることに関心を持ち具体的な事象の考察に活用しようとする。 【関】 ・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式での表現方法を考察できる。 【数】 ・曲線をいろいろな式で表現したり描くことができる。また具体的な事象の考察に活用できる。 【表】 ・媒介変数表示や極座標について理解し二次曲線の基本的な性質や、いろいろな式で曲線が表現できることを理解している。 【知】
	数学Ⅲ 第3章	関数	
	1.分数関数 2.無理関数 3.逆関数と合成関数	<ul style="list-style-type: none"> ・分数式の計算が自由に行えるようにする。また関数 $y=k/x$ のグラフをもとにして、関数 $y=\frac{ax+b}{cx+d}$ のグラフがかけられるようにし、この関数の特徴を理解する。 ・関数 $y=x^2(x\geq 0)$ のグラフとの対比で、関数 $y=\sqrt{x}$ のグラフを考える。さらに $y=\sqrt{ax+b}$ のグラフがかけられるようにする。 ・グラフを利用して、$\sin$式や無理式を含む簡単な方程式・不等式を解けるようにする。 ・合成関数 $y=g(f(x))$ の意味を理解する。 ・逆関数の意味を知り、簡単な関数の逆関数を求めたり、そのグラフがかけられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数値と極限値の違いを理解する。級数において限りなく増すことが、どんな大きな数より大きくなることと手の違いを理解する。 【知】

数学Ⅲ 第4章 極限		
5	<p>1.数列の極限</p> <ul style="list-style-type: none"> 無限数列$\{a_n\}$において、nが増加するとa_nがどのように変化するかを具体的な数列で考察し数列の収束、発散の意味を理解する。 数列の極限については、まず直感的に極限の四則を把握し、具体例を通してその求め方を理解する。また、極限值の大小関係にも注目する。さらに、無限等比数列の収束について詳しく考察する。 無限級数の和の意味を理解し、いくつかの無限級数の和を具体的に求める。次に、無限等比級数の和を考え、図形への応用問題、循環小数等の考察を通してその理解を深める。さらに、いろいろな無限級数の和について考察する。 <p>2.関数の極限</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅱで学んだ関数値の極限の概念を深化し、種々の関数値の極限が求められるようにする。また、$\lim_{E \rightarrow 0} \frac{\sin E}{E}$ について考える。 関数の連続性について考察し、それに基づく最大値・最小値の存在や中間値の定理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数列・級数の極限について関心を持ち、関数の極限についても関心を持つ。 【関】 数列の極限や級数の和を求めることができる。微分係数を用いて関数の極限を求めることができる。 【数】 数列、関数の極限(値)を求めたり、級数の収束・発散の判定をし、和を求めることができる。 【表】
数学Ⅲ 第5章 微分法		
6	<p>1.微分係数と導関数</p> <p>2.導関数の計算</p> <p>3.いろいろな関数の導関数</p> <p>4.高次導関数</p> <p>5.関数のいろいろな表し方と導関数</p> <ul style="list-style-type: none"> 微分係数、導関数の定義、微分法の基本的な公式を確認する。 微分可能な2つの関数の積・商の導関数及びnが負のときのx^nの導関数を求められるようにする。 合成関数の導関数及びnが有理数のときのx^nの導関数さらに逆関数の導関数を求められるようにする。 x, yの方程式$f(x, y) = 0$で表された関数についてその導関数を求められるようにする。 三角関数の導関数を求められるようにする。 自然対数の底eを学び、対数関数の導関数を求められるようにする。 対数を利用した微分法を学ぶ。 指数関数の導関数及びnが実数のときのx^nの導関数を求められるようにする。 高次導関数を求められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 微分法が関数の増加減少やグラフの凹凸の判断に利用できること、グラフを描くことに利用できることに関心を抱く。 【関】 導関数により関数の増加減少グラフの凹凸の考察ができる。また速度・加速度等についても考察できる。 【数】 いろいろな関数の導関数を求めその関数の増減表を調べ、グラフを描くことができる。微分係数を用いて極限值を求められる。 【表】
数学Ⅲ 第6章 微分法の応用		
	<p>1.導関数の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> 微分の応用として、接線の方程式および法線の方程式を導けるようにする。 平均値の定理について、その意味を理解できるようにする。また、この定理にもとづいて関数に関する基本的な性質を証明し、関数の増減を調べられるようにする。 関数の値の変化を調べ、極値を求められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 微分法とその自然科学への応用例を理解する。また関数の性質を調べるための知識を身に付けている。 【知】
	<p>2.速度と近似式</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲線の凹凸に関する性質を知り、これまでに学んだことを総合してグラフの概形がかけられるようにする。 関数について、最大値、最小値を求められるようにする。 微分法を応用して、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を調べたりすることができるようにする。 曲線の媒介変数表示、および媒介変数で表された関数の微分法について学び、さらに運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できるようにする。 1次近似式について学び、近似式が求められるようにする。 	

数学Ⅲ 第7章 積分法			
7	1.不定積分	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学Ⅱ」で学んだ積分の概念、積分法の基本的な公式を復習する。 ・第2章で学んだ累乗関数(Xの実数乗)、三角指数・対数関数の導関数の公式を用いて、基本的な関数の不定積分の公式を導く。 ・置換積分法、部分積分法を導入し、これらがこれらが不定積分を求める有力な方法であることを理解し、これらを用いる能力を伸ばす。 ・分数式を部分分数に分解したり、三角関数を半角の公式や、積を和・差になおす公式を用いて変形することによって、分数関数や三角関数の不定積分を求める方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積分法に関心を持ち、既知の事柄との関わりについて理解しようとする。 【関】 ・積分によって、面積・体積の公式が導き出されることを数学的に考察することができる。 【数】
	2.定積分	<ul style="list-style-type: none"> ・定積分や、積分と微分の関係について、数Ⅱで学んだ基本的な性質を再確認する。これまでの不定積分の公式や、置換積分法・部分積分法を用いて定積分を求める方法を学ぶ。 ・区分求積法の考え方による定積分の意味について理解させ、また、一般項が特殊な和の形をした数列の極限値を定積分の計算によって求める方法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記号を用いて積分の計算処理ができ、面積・体積が求められる。 【表】 ・不定積分・定積分の概念や記号の意味を理解している。また具体的な事象を積分により解決するための基礎知識を身に付けている。 【知】
数学Ⅲ 第8章 積分法の応用			
8	面積、体積 曲線の長さ 速度と道のり	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学Ⅱ」で学んだ面積の計算を発展させ、簡単な整関数以外の関数のグラフや媒介変数表示の曲線で表される図形の面積を求める方法を学ぶ。 ・立体の体積や曲線の長さが定積分で求められる事を理解し、計算ができるようにする。 	

地歴公民科

教科名	地歴科	科目名	世界史A
科目の目標	(1)歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2)歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	明解 世界史A (帝国書院)	副教材等	なし

①学習の目標

- (1)人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
 (2)混迷を深める国際社会を生き抜くための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

- 第1部 世界の一体化と日本
 東アジアの文明・南アジアの文明
 西アジア・北アフリカの文明・ヨーロッパの文明
 ヨーロッパとアメリカの諸革命
 東アジアの大変動
- 第2部 地球社会と日本
 第一次世界大戦がもたらしたもの
 民族自決を求めて
 経済危機から第二次世界大戦へ

③学習に当たっての留意点

歴史は、人類の営みの探求であり、興味深いものである。また、適切な歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。自国の歴史を正しく理解するためにも、他の国や世界全体を理解することが必要である。本校の3年生での世界史Aは、世界史の近現代史を中心に学習し、世界史の視点から社会科学の方法論を学んでいく。

④評価の観点

(1)関心・意欲・態度
【関】	歴史に対する興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。
(2)思考・判断
【思】	歴史に対する興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。
(3)資料活用の技能・表現
【資】	教科書・資料集等を活用して、興味を持った事柄について調べることができるか。
(4)知識・理解
【知】	授業の内容を理解し、教科書レベルの知識を身につけることができたか。

⑤評価の方法

下位目標：授業の内容と世界史の基礎的知識の確認・定着をはかる。
 中位目標：歴史に対する興味・関心を持ち、関連する現代社会の諸事象への理解を深める。
 上位目標：歴史を学ぶことを通して、歴史学さらに社会科学の方法論を身に付ける。
 以上の目標について、どの段階まで達成できたかを、定期考査を中心に、授業中の観察を加味して総合的に評価していく。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1部 世界の一体化と 日本	東アジアの文明	・各地域で特徴的な文明が生まれたことを理解する【知】 ・各地域の文明を比較して特徴を捉える【関・思】 前期中間考査
5		南アジアの文明	
5		西アジアの文明	
6		ヨーロッパの文明	
		ヨーロッパとアジアの諸革命	

7 8 9	第2部 地球社会と日本	現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦がもたらしたもの 民族自決を求めて 経済危機から第二次世界大戦へ	<ul style="list-style-type: none"> ・大戦の原因とその後の歴史の進展についての理解【知】 ・明治維新後の日本が欧米のアジア進出に対してどのような対応だったのかについての興味・関心【関・思】 ・帝国主義段階に入った列強の国際関係と第一次世界大戦の意義【関・思】 <p>前期期末考査</p>
10 11	第2部 地球社会と日本	冷戦から地球社会へ 冷たい戦争の時代 冷戦終結への道のり	<ul style="list-style-type: none"> ・大戦の原因とその後の歴史の進展についての知識【知】 ・国家の政治経済活動を反映した国際紛争、国際経済の展開に関する理解【知】 ・大戦とその後の現代世界について、原因でもあった日本の果たした役割についての興味・関心【関・思】 <p>後期中間考査</p>
12 1	第2部 地球社会と日本	共に生きる世界を作るために	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の多様な国際情勢についての基本的知識【知】 ・地域紛争の原因と多極化する国際社会についての理解【知】 ・現代社会における日本の立場、役割についての興味・関心【関・思】

地理歴史・公民科

教科名	地歴科	科目名	日本史A
科目の目標	(1) 歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2) 歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	日本史A(東京書籍)	副教材等	

①学習の目標

- (1) 人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2) 混迷を深める国際社会を生き抜くための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 教科書の内容を中心に、各自のノートに要点整理をしながら、日本の歴史の基本事項を学ぶ。
- (2) テーマを設定し、自分で資料を活用し考察する課題にも取り組む。

③学習に当たっての留意点

歴史は、興味深いものであると同時に正しい歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。また、自国の歴史を正しく理解することは、他の国や世界全体を理解するための基礎となる。世界史的視野を踏まえ、現代日本の諸問題に対する考察を深める。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国家・社会の一員としての責任を果たそうとしているか。【関】
- (2) 思考・判断
【思】 日本の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多角的に我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化をふまえ公正に判断しているか。【思】
- (3) 資料活用の技能・表現
【資】 日本の歴史についての諸資料を収集・活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけ、考察した過程や結果を適切に表現できるか。【資】
- (4) 知識・理解
【知】 日本の歴史についての基本的・発展的な事柄を世界史的視野に立って理解し、その知識を身につけているか。【知】

⑤評価の方法

定期考査の成績とともに、学習活動への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	欧米における近代社会の成長と発展と日本における近代国家の成立	欧米の近代社会の成長と発展、さらにアジアへの進出を、日本の近代国家の成立と絡めて考える 序章 近世社会の動揺と近代へ胎動	・開国から明治時代の近代日本の歩みに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。整理ノートの確認と授業態度から評価する。 【関】 ・諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。レポート提出あるいは発表する。 【資】
5		1 開国と明治維新	・課題を見だし、アジアにおける国際環境と関連付けて多角的に考察できるか。また欧米の近代社会の成長と発展、幕末の動乱と明治新時代へと移り変わる日本国内の政治・社会・文化の変化を理解し、知識を身につけているか。定期考査の素点から評価する。【思】【知】
6		2 立憲国家の成立	

		前期中間考査		
7	二つの世界大戦と戦後	2 立憲国家の成立	前期中間考査	<p>・日清・日露戦争、二つの世界大戦と戦後の日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。調べ学習等への取り組みと発表やレポート等の表現から評価する。【関】</p> <p>・諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。レポート提出あるいは発表する。【資】</p> <p>・課題を見だし、世界情勢や日本国内の動きと関連付けて多角的に考察できるか、調べ学習のレジュメ、研究発表とテーマについての議論から評価する。また二つの世界大戦と日本の関わり、大正・昭和と移り変わる日本国内の政治・社会・経済・民衆の動き、日本が軍国主義へと向かう背景と戦後の占領政策の内容、さらには日本が主権を回復し国際社会に復帰した後の政界の動きや経済成長の動向を理解し、知識を身につけているか。定期考査の素点から評価する。【思】</p> <p>【知】</p>
8		3 第一次世界大戦と日本		
9		4 昭和の恐慌と満州事変		
10		5 第二次世界大戦と日本		
11		6 占領下の日本		
		7 経済繁栄と保守長期政権		
12		激動する世界と日本		
1				

地理・歴史科

教科名	地理・歴史科	科目名	地理A
科目の目標	1. 現代世界の地理的な諸課題を地域性をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 2. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	東京書籍「地理A」	副教材等	新詳高等地図初訂版(帝国書院)

①学習の目標

- (1) 現代社会の地理的事象を系統的・地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- (2) 地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

②学習内容と授業の進め方

第1編 現代世界の特徴と動向

地球儀や地図から世界をとらえ、地球的な結びつきについて考える。

第2編 世界の生活・文化の多様性

地球上における自然環境・社会環境について考え、各国の文化・生活について理解を深め、課題を考える。

第3編 深刻化する地球的課題とその解決策

国際社会が直面する様々な課題を学び、日本の果たすべき役割や日本人の責務を考える。

第4編 身近な地域と地理的課題

身近な地域と地図を活用し、日本における自然・災害等の課題について考える。

③学習に当たっての留意点

- (1) 基本的な地理用語を理解させると同時に、政治経済や世界史・日本史などの内容にも関連させ、横断的な見方・考え方を身につけさせることを心掛ける。
- (2) 世界の諸地域の生活や文化に対して正しい理解をすると同時に、直面しているさまざまな課題を地理の学習を通じて明らかにするために、内容を精選して授業を実施する。
- (3) 現実の世界を知る手だてとしてデジタル地図やビデオ教材を使う。また、必要に応じて外部講師を招いて現地の話聞く。
- (4) 東日本大震災を教材化し、災害の教訓に学び、各種災害の性格とその危険性を知り、災害時にとるべき行動を知識として身につけさせる。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度
【関】	地理の楽しさを味わうことができるよう、自ら進んで計画的・意欲的に学習しようとする。
(2) 思考・判断
【思】	世界の自然環境などを位置や空間的な広がりに着目して地理的事象を見だし、考察することができる。
(3) 知識・理解
【知】	現代世界の特質を地球規模で理解し、その知識を身につけている。
(4) 資料活用の技能・表現
【資】	学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切にまとめることができる。

⑤評価の方法

定期テスト・提出物、日常の授業への関心・意欲・態度とあわせて総合的に判断する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1編 現代世界の 特徴と動向	第1章 地球儀や地図からとらえる世界 第2章 結びつく現代世界	・世界の自然環境・生活文化に対して、課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・世界の自然環境などを世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】
12		第2編 世界の生活・ 文化の多様性	第1章 世界的視野から見た自然環境と文化 第2章 諸地域の生活・文化と環境
	第3編 深刻化する地 球的課題とその解決 策	第1章 地図で読み解く地球的課題 第2章 さまざまな地球的課題 第3章 持続可能な社会の実現を目指して	・変容する現代世界の諸地域に対して、関心と課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・諸地域の環境条件、他地域との結びつき、地域に生きる人々の営みなどを多面的・多角的に考察しているか。【思】
	第4編 身近な地域と 地理的課題	第1章 身近な地域と地図 第2章 自然環境と防災 第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	・事例として取り上げた地域・国・州・大陸の地域の特色を理解しているか。【知】 ・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】

地歴公民科

教科名	地歴科	科目名	世界史研究
科目の目標	(1)歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2)歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	世界史B(東京書籍)	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)

①学習の目標

- (1)人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2)自国の歴史を正しく理解するために、混迷を深める国際社会を生き抜くための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

欧米における近代国家の成長
 欧米における近代国民国家の発展
 近代日本の成立
 アジア諸地域の動揺
 帝国主義とアジアの民族運動
 近代日本とアジア、占領下の時代、高度経済成長
 二つの世界大戦
 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立
 激動する世界と日本
 現代の世界
 (文系のみ)
 私大・二次向け演習

③学習に当たっての留意点

歴史は、興味深いものであると同時に正しい歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。また、自国の歴史を正しく理解することは、他の国や世界全体を理解するための基礎となる。一方で、2年生の段階で世界史を選択した人には、世界史が必須受験科目であるという現実もある。

本校の3年生での世界史研究は、日本の近現代史についての基礎的な知識を身に付け、正しい歴史認識を持つこととあわせて、2年生の段階で不十分である世界史の近現代史を学習し、歴史を中心に社会科学の方法論を学んでいく。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度
【関】	歴史に対する興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。
(2) 思考・判断
【思】	歴史に対する興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。
(3) 資料活用の技能・表現
【資】	教科書・資料集等を活用して、興味を持った事柄について調べることができるか。
(4) 知識・理解
【知】	授業の内容を理解し、センター試験レベルの知識を身につけることができたか。

⑤評価の方法

下位目標:授業の内容と世界史の基本の確認、知識の定着。

中位目標:歴史に対する興味・関心を持ち、関連する現代社会の諸事象への理解を深める。

上位目標:歴史を学ぶことを通して、歴史学さらに社会科学の方法論を身に付ける。

以上の目標について、どの段階まで達成できたかを、定期考査中心に、授業中の観察を加味して総合的に評価していく。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5 6	欧米における国民国家の形成	アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン ウーン体制 ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展 19世紀欧米の文化	・欧米の近代化、革命と産業発展、国家形成についての知識【知】 ・産業の発展が国家の成立に果たした役割と各国の経済活動に関する理解【知】 ・日本の幕藩体制が近代化に遅れた原因についての興味・関心【関・思】 前期中間考査
7 8 9	産業資本主義の発展と帝国主義 アジア諸地域の改革運動	近代日本の成立の時代を、同時期の欧米のアジアへの進出をからめて考える オスマン帝国支配の動揺とアラブの目ざめ 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動	・アジア諸国に対する欧米の進出の影響、その後の民族運動についての知識【知】 ・欧米諸国の進出がアジア国家に与えた影響とその後の経済活動に関する理解【知】 ・明治維新後の日本が欧米のアジア進出に対してどのような対応だったのかについての興味・関心【関・思】 前期期末考査
10 11	世界戦争の時代 国民国家体制と東西の対立	日本とアジアの関わり、大戦を起こした日本と戦後について、世界史的視点での二つの大戦とその後の冷戦、第三世界の成立等の状況から考える 第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ民族主義の進展 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 東西対立の始まりとアジア諸地域の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機	・大戦の原因とその後の歴史の進展についての知識【知】 ・国家の政治経済活動を反映した国際紛争、国際経済の展開に関する理解【知】 ・大戦とその後の現代世界について、原因でもあった日本の果たした役割についての興味・関心【関・思】 後期中間考査
12	君たちの時代へ	現代日本がかかえる課題について、世界史の現代史の展開を通して考える 冷戦の解消と世界の多極化 ソ連・東欧社会主義国の解体とアジア圏社会主義国の転換 第三世界の多元化と地域紛争 現代文明	・現代の多様な国際情勢についての基本的知識【知】 ・地域紛争の原因と多極化する国際社会についての理解【知】 ・現代社会における日本の立場、役割についての興味・関心【関・思】
1	(文系のみ) 私大・二次向け演習	大学入試の問題演習を通して、社会科学で何が問われているのかを考える	・実際に大学の入試問題をとけるかどうか【知】 ・求められていることが実際に知識偏重になっていないことの確認【思・資】 ・入試問題の中で要求される社会科学の方法論についての関心【関・思】

地理・歴史科

教科名	地理・歴史科	科目名	探求地理
科目の目標	(1)地理に対するの興味・関心を深め、基本的な地理用語を理解する。 (2)地理の学習を通して現代社会についての理解を深め、主体的に関わる態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	新詳地理B(帝国書院)	副教材等	データブックオブ・ザ・ワールド(二宮書店)
			新詳高等地図(帝国書院)

①学習の目標

- (1)広い視野を持って地理的事象を系統的・地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- (2)地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

②学習内容と授業の進め方

- (1)2年次の実施範囲における試験対策問題演習

③学習に当たっての留意点

- (1)受験に対応するため、基本的な地理用語を理解させると同時に、政治経済や世界史・日本史などの内容にも関連させ、横断的な見方・考え方を身につけさせることを心掛ける。
- (2)大学入試にも対応するための問題演習。

④評価の観点

(1)関心・意欲・態度
【関】	地理の楽しさを味わうことができるよう、自ら進んで計画的・意欲的に学習しようとする。
(2)思考・判断
【思】	世界の自然環境などを位置や空間的な広がりに着目して地理的事象を見だし、考察することができる。
(3)知識・理解
【知】	現代世界の特質を地球規模で理解し、その知識を身につけている。
(4)資料活用の技能・表現
【資】	学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切にまとめることができる。

⑤評価の方法

定期テスト・小テスト等を実施、日常の授業への関心・意欲・態度とあわせて総合的に判断する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	地理情報と地図	現代世界の地図 地図の種類とその利用	・地図から地理情報を読み取ることができるか【資】
	自然環境	世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活	・世界の自然環境・生活文化に対して、課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
	資源と産業	環境問題 世界の農林水産業 食料問題 世界のエネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題 世界の工業 第3次産業	・世界の自然環境などを世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】 ・世界の自然環境などに関して、多様性や地域性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】
		前期中間考査	
↓	人口、村落・都市	世界を結ぶ交通・通信 現代世界の貿易と経済圏 世界の人口 人口問題	・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】 ・世界の課題に対して、問題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
	生活文化、民族・宗教	村落と都市 都市・居住問題 生活文化 民族と宗教	・課題を世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】
	現代世界の諸地域	現代世界の国家 民族・領土問題 東アジア 東南アジア 南アジア	・世界の課題に関して、多様性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】
		後期中間考査	
12		西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アンゲロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア	・変容する現代世界の諸地域に対して、関心と課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・諸地域の環境条件、他地域との結びつき、地域に生きる人々の営みなどを多面的・多角的に考察しているか。【思】 ・事例として取り上げた地域・国・州・大陸の地域の特色を理解しているか。【知】 ・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】

地理歴史・公民科

教科名	地歴科	科目名	探求日本史
科目の目標	(1) 歴史についての興味関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2) 歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	詳説日本史B(山川出版)	副教材等	図説日本史通覧(帝国書院)

①学習の目標

- (1) 人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2) 混迷を深める国際社会を生き抜くための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

日本における近代国家の成立
 近代日本とアジア
 占領下の日本
 高度成長の時代
 激動する世界と日本
 センター向け演習
 私大・二次向け演習(文系のみ)

③学習に当たっての留意点

歴史は、興味深いものであると同時に正しい歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。また、自国の歴史を正しく理解することは、他の国や世界全体を理解するための基礎となる。一方で、2年生の段階で日本史Bを選択した人には、日本史が必須受験科目であるという現実もある。

本校の3年生での日本史Bは、世界の近現代史についての基礎知識も身に付け、正しい歴史認識を持つこととあわせて、大学受験に対応できるよう日本史の近現代史を学習し、歴史を中心に社会科学の方法論を学んでいく。

④評価の方法

下位目標: 授業の内容と世界史の基本の確認、日本史のセンターレベルの知識の定着。

中位目標: 歴史に対しての興味・関心を持ち、関連する現代社会の諸事象への理解を深める。

上位目標: 歴史を学ぶことを通して、歴史学さらに社会科学の方法論を身に付ける。

以上の目標について、どの段階まで達成できたかを、定期考査中心に、授業中の観察を加味して総合的に評価していく。

⑤授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法	備考
4	近代国家の成立	日本の近代国家の成立を、欧米の近代社会の成長と発展、さらにアジアへの進出と絡めて考える	・欧米の近代社会の成長と発展を理解し、幕末の動乱と明治新時代へと移り変わる日本国内の政治・社会・文化の変化を理解できているか。また、日清・日露戦争前後の国際関係の変化に興味を持つことができているか。	前期中間考査
5		開国と幕末の動乱		
6		明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争		
7		日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達		

	近代日本とアジア	二つの世界大戦と戦後について、日本史的視点での二つの大戦とその後の冷戦、第三世界の成立、経済成長等の状況から考える		
8		第一次世界大戦と日本		
9		ワシントン体制		前期期末考査
10		市民文化 恐慌の時代 軍部の台頭	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの世界大戦と日本の関わりを理解できているか。また、大正・昭和と移り変わる日本国内の政治・社会・経済・民衆の動きが理解できているか。・日本が軍国主義へと向かう背景と戦後の占領政策の内容、さらには日本が主権を回復し国際社会に復帰した後の政界の動きや経済成長の動向を理解できているか。 	
11		第二次世界大戦 占領と改革 冷戦の開始と講話 55年体制 経済復興から高度成長へ		
12	激動する世界と日本	現代世界がかかえる課題について、日本史の現代史の展開を通して考える 経済大国への道 冷戦終結と日本社会の動揺 センター向け演習		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸問題を理解し、現代の日本が何をすべきなのか考えることができるか。 ・センター試験の問題が、実際に解けるかどうか。
1	文系のみ	大学入試の問題演習を通して、社会科学で何が問われているのかを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に大学の入試問題を解けるかどうか ・求められていることが実際に知識偏重になっていないことの確認 ・入試問題の中で要求される社会科学の方法論についての関心 	

地理・歴史科

教科名	地理・歴史科	科目名	ゼミナル地理
科目の目標	(1)地理に対する興味・関心を深め、基本的な地理用語を理解する。 (2)地理の学習を通して現代社会についての理解を深め、主体的に関わる態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	5単位	履修形態	選択
教科書	新詳地理B(帝国書院)	副教材等	データブックオブ・ザ・ワールド(三宮書店)
			新詳高等地図(帝国書院)

①学習の目標

- (1)広い視野を持って地理的事象を系統的・地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
 (2)地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

②学習内容と授業の進め方

第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能

各種の地図から地理情報を読み取る力を養う。

第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察

自然環境、資源と産業、村落・都市と生活文化に関連して人間との関係について考える。

第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察

国家規模の地誌的分析を通して、ミクロ・マクロ別に区分し、地理的視点で客観的に考える。

③学習に当たっての留意点

- (1)受験に対応するため、基本的な地理用語を理解させると同時に、政治経済や世界史・日本史など
 の内容にも関連させ、横断的な見方・考え方を身につけさせることを心掛ける。
 (2)難関大学の二次試験に対応するために、内容を精選して授業を実施する。

④評価の観点

- (1)関心・意欲・態度
 【関】 地理の楽しさを味わうことができるよう、自ら進んで計画的・意欲的に学習しようとする。
- (2)思考・判断
 【思】 世界の自然環境などを位置や空間的な広がりに着目して地理的事象を見だし、考察することができる。
- (3)知識・理解
 【知】 現代世界の特質を地球規模で理解し、その知識を身につけている。
- (4)資料活用の技能・表現
 【資】 学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切にまとめることができる。

⑤評価の方法

定期テスト・小テスト等を実施、日常の授業への関心・意欲・態度とあわせて総合的に判断する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	地理情報と地図 自然環境	現代世界の地図 地図の種類とその利用 世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活 環境問題	・地図から地理情報を読み取ることができるか【資】 ・世界の自然環境・生活文化に対して、課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
5	資源と産業	世界の農林水産業 食料問題 世界のエネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題	・世界の自然環境などを世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】 ・世界の自然環境などに関して、多様性や地域性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】
6		世界の工業 第3次産業	
前期中間考査			
7	人口、村落・都市	世界を結ぶ交通・通信 現代世界の貿易と経済圏 世界の人口 人口問題	・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】 ・世界の課題に対して、問題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
8	生活文化、民族・宗教	村落と都市 都市・居住問題 生活文化 民族と宗教	・課題を世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】
9	現代世界の諸地域	現代世界の国家 民族・領土問題 東アジア 東南アジア 南アジア	・世界の課題に関して、多様性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】
10		西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	・変容する現代世界の諸地域に対して、関心と課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・諸地域の環境条件、他地域との結びつき、地域に生きる人々の営みなどを多面的・多角的に考察しているか。【思】
11		ヨーロッパ ロシア アンゴロアメリカ ラテンアメリカ	・事例として取り上げた地域・国・州・大陸の地域の特色を理解しているか。【知】
12		オセアニア 演習問題	・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】
後期中間考査			

公民科

教科名	公 民	科目名	政治・経済
科目の目標	(1) 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。 (2) それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	2単位	履修形態	選択履修
教科書	政治・経済(数研出版)	副教材等	政治・経済資料2017(とうほう),4ステージ演習ノート(数研出版)

① 学習の目標

- (1) 現代社会の諸課題に対して、政治・経済・国際関係における原理・原則を理解し、多面的・多角的な考察から、その解決方法について表明する力を育成する。
- (2) 政治、経済、国際関係における原理・原則を基に、図表やデータ及び時事的な話題を読み解く方法を身に付け、現代社会において公正な判断と良識ある公民として行動できる力を養う。

② 学習内容と授業の進め方

- (1) 教科書の第1章 第2章を順番に教科書・副教材等を用いて学習していきます。第3章については、第1章・第2章に関連ある場所に組み込んで学習していきます。
- (2) 原理・原則の理解のために講義中心の授業を行います。また、関連ある図表や現代社会の諸課題に関する記事等を用いて事象に対する多面的・多角的な見方や考え方について学びます。
- (3) これらを基に現代社会の諸課題の背景を捉え、解決の糸口を考察していきます。

③ 学習に当たっての留意点

- (1) 大学入試センター試験「倫理・政治経済」「政治・経済」受験に対応するためには、単なる基本的な用語や事項の暗記では不十分です。政治、経済、国際関係における原理・原則の理解を基礎とし、現代社会におけるさまざまな課題について、それらが生じてきた背景や改善のあり方について多角的・多面的に考察することが必要です。また、主体的に考察することは本質的な理解や自分の意見を作り上げることにもつながります。「どのような状況で、何を目的に、何がなされたのか」という観点から「社会を見る」訓練をしていきましょう。そのため、日頃からニュースを見る・新聞を読むなどして時事的問題・課題に興味関心を持つだけでなく、多様なジャンルの書物を読むことや人の話を聞くなどし多様なものの見方や考え方に触れることが必要です。
- (2) 「現代社会」及び地理歴史科における各科目内容との関連性を意識し、歴史的背景や地理的条件が政治、経済、国際関係に大きく影響を与えていることを理解すると効果的に学習できます。

④ 評価の観点

(1) 関心・意欲・態度
【関】	政治・経済・国際関係に関する諸課題に対する関心が高まり、意欲的に課題を考察しようとする姿勢や態度が養われ、現代社会における諸課題に対して自分自身の意見を持つことができるようになっていくか。
(2) 思考・判断
【思】	現代社会の諸課題に関して、政治、経済、国際関係の原理・原則を基に社会の変化や様々な立場をふまえ、現代世界における事象を考察し公正な判断ができるようになっているか。
(3) 資料活用の技能・表現
【技】	現代の政治・経済・国際関係に関わる諸資料を適切に収集し、それを効果的に活用し考察の過程及び自分自身の見解を適切な方法で表現することができるようになっているか。
(4) 知識・理解
【知】	現代の政治・経済・国際関係に関する原理・原則を理解し、知識として身につけているか。

⑤ 評価の方法

上記の評価の観点を定期考査及び自己評価を用いて、総合的に評価します。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5 6	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法		民主政治の基本原則について意欲的に探求し、望ましい政治の在り方と国民の政治参加の意義について考察できているか。【関】【思】 現代の政治に関する事項に対し、有用なメディアを選択したり、資料を収集をしたりし、効果的な活用方法を身につけているか。【資】 民主政治の基本原則、日本国憲法の基本原則、日本の政治機構についての知識を身につけているか。【知】
	第1節 民主政治の基本原則	1 政治と法 2 民主政治のあゆみ 3 民主政治の基本原則とその展開 4 政治体制の比較	
	第2節 日本国憲法と基本的人権	1 日本国憲法的基本的性格 2 基本的人権の保障 3 日本国憲法の平和主義	
	第3節 日本の政治機構	1 国会のしくみと役割 2 内閣と行政機関 3 裁判所のしくみと人権保障 4 地方自治のしくみと住民生活	
	第4節 政治参加と民主政治の課題	1 戦後政治と政党 2 選挙制度のしくみ 3 世論と情報社会	前期中間考査
9	第2章 現代の国際政治		国際政治に関わる基本的な概念や理論、現代の国際政治の特質や国際政治の諸要因に対する関心を高め、国際社会における日本の役割について考察できているか。【関】【思】 国際政治に関わる社会の変化や立場を理解し、効果的な資料を用いながら知識として身につけているか。【資】【知】
	第1節 国際政治の動向	1 国際社会の特質 2 国際社会と国際法 3 国際社会の組織化 4 戦後国際政治の展開	
	第2節 国際社会の課題と日本の役割	1 核兵器の廃絶と軍縮問題 2 地域紛争と人種・民族問題 3 日本の国際的地位と役割	
10	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質		現代の経済に関する基本的な概念や理論、現代の日本経済・国際経済の特徴について関心を持って取り組み、これからの日本経済の在り方を考察できているか。【関】【思】 現代経済に関する資料・特にグラフの読み取りを正確に行い、そこから得られる具体的課題について検証することができる。【資】 現代経済に関して、基本的事項を理解し、それを活用することで、現代経済の諸課題に関する解決方策を考察することに利用できるか。【知】
	第1節 経済活動の意義と経済体制	1 人間と経済活動 2 資本主義経済の発展と変容 3 経済活動の主体	
	第2節 現代経済のしくみ	1 市場経済のしくみ 2 物価の動向 3 国民所得と経済成長 4 財政のしくみと租税 5 金融のしくみと働き	
	第3節 日本経済と福祉の向上	1 戦後日本経済のあゆみ 2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障	
11	第2章 国民経済と国際経済		後期中間考査
	第1節 国際経済の動向	1 貿易と国際収支 2 国際経済のしくみ	
12	第2節 国民経済の課題と国際協力	1 地球環境と資源・エネルギー問題 2 発展途上国の経済と経済協力 3 国際経済における日本	
	総合演習 1 総合演習	センター試験へ向けた演習 問題演習	

公民科

教科名	公民科	科目名	倫理
科目の目標	(1)自己・人間に対する考察ができたかをもとに、人間の普遍的命題について考察する態度を身につける。 (2)多様化する現代社会の状況や諸問題について考察する態度を身につける。 (3)国際社会の中で、日本人としての生き方を考察する態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	単位	履修形態	選択履修
教科書	高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院版)	副教材等	テオリーア 最新倫理資料集 (第一学習社) パスポート倫理問題集(清水書院)

①学習の目標

(1)多様化・複雑化する現代社会の中で、確立した個の視点を身につける。

(2)センター試験のリード文や資料を読解して解答するとともに、出題者の思想的観点について思索を深め、自己の価値観の形成の一助とする。

②学習内容と授業の進め方

第1編 現代に生きる自己の課題

第1章 人間とは何か

第2章 青年期の自己形成

第2編 人間としての自覚と生き方

第1章 人間における哲学

第2章 人生における宗教

第1節 キリスト教—愛の宗教

第2節 イスラーム—啓示と戒律の宗教

第3節 仏教—智慧と慈悲の宗教

第3章 人生の知恵

第4章 人生における芸術

- ・古代ギリシア哲学を通して、愛知の精神に基づいた人生のあり方を考察する。
- ・ヘブライズム・イスラム・インド思想を通して、人生のあり方を考察する。
- ・中国思想を通して、人生のあり方を考察する。
- ・作品と芸術家の関係を通して、人生における芸術の意味を考察する。

第3編 現代社会と倫理

第1章 現代の倫理的課題

第2章 現代に生きる人間の倫理

第1節 人間の尊厳

第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり

第3節 民主社会における人間のあり方

第4節 自己実現と幸福

第5節 個人と社会とのかかわり

第6章 現代における理性の問題

- ・多様化した現代社会とそこから派生する諸問題について考察する。
- ・ルネサンス思想から構造主義までその時代状況を支える思想を考察しながら、現代日本の諸問題を解決するための方途を考察する。

第4編 国際社会に生きる日本人の自覚

第1章 日本の風土と外来思想の受容

第1節 日本の風土と伝統

第2節 仏教の伝来と隆盛

第3節 儒教の日本化

第4節 日本文化と国学

第5節 近世庶民の思想

第6節 西洋近代思想の受容

第2章 現代の日本と日本人としての自覚

- ・日本思想の基点である日本風土の特徴とそこから生まれた思想、更に仏教・儒教の伝来や西欧思想の流入とその日本化など現代日本思想の原風景を考察する。
- ・現代日本人の自覚のあり方を、戦後活躍した先人の言行を通して考察する。

第5編 現代の諸課題と倫理

第1章 生命と倫理

第2章 環境と倫理

第3章 現代の家族とその課題

第4章 地域社会の変容とその課題

第5章 情報社会とその課題

第6章 グローバル化の時代と倫理

第7章 人間の福祉と国際社会

- ・環境・生命の視点から現代社会の諸問題を考察する。
- ・家族・地域社会と情報社会の視点から現代社会の諸問題を考察する。
- ・異文化理解と人類の福祉の視点から現代社会の諸問題を考察する。

③学習に当たっての留意点

1年次に「現代社会」を2単位必修で実施しているので、3年次の「倫理」では更に深化させ、受験対応の知識を超えた展開も必要になる。

④評価の観点

(1)関心・意欲・態度【関】

人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める意欲をもつとともに、諸課題を探究する態度を身に付け、人間の在り方生き方について自覚を深める。

(2)思考・判断力【思】

生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立って主体的・公正に判断する。

(3)資料活用の技能・表現【資】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、自己形成に資するよう活用するとともに、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。

(4)知識・理解【知】

青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の素点とともに、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法
4	第1編 現代に生きる自己の課題	1 人間とは何か 2 青年期の自己形成	・青年期の積極的な意義と青年期にある自己の生き方にかかわる課題に対する関心が高まっている。【関】 ・青年期の意義と課題について、自己の生き方にかかわる課題とつなげ、他者とともに生きる観点から多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究している。【思】 ・収集した資料の中から、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかかわり、社会や自然とのかかわりの観点から豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に活用している。【資】 ・青年期の意義について、自己確立の基礎を培う時期であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】

	第2編 人間としての自覚 と生き方	第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想	・自己の生き方にかかわる課題の解決につながるものとして、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心が高まっている。【関】 ・自己の生き方にかかわる課題と人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などをつなげて、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見いだしている。
5		第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教ー愛の宗教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 イスラムー啓示と戒律の宗教 第3節 仏教ー悟りと慈悲の宗教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	【思】 ・人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・自己の生き方にかかわる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気付き、それが人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることを理解している。【知】
6		第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	前期中間考査
		第4章 人生における芸術	
7	第3編 現代社会と倫理	第1章 現代の特質と倫理的課題 1 科学技術の発達と今日の課題 2 現代社会の特質 第2章 現代社会を生きる倫理 第1節 人間の尊厳 1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界 第2節 自然や科学技術と人間のかかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光 第3節 民主社会における人間のあり方 1 民主社会の原理 2 人権思想の展開 第4節 自己実現と幸福 1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり 1 人間性の回復を求めて 2 自己を見つめる 3 社会参加と奉仕 第6節 生命への畏敬と他者の尊重 1 生命への畏敬 2 理性見直しと他者の尊重	・現代の特質について、倫理的課題の観点から自己の課題とつなげて意欲的に考えようとしている。【関】 ・現代の特質のうち、人間としての在り方生き方にかかわりの深い課題を見いだしている。【思】 ・収集した資料の中から、今日に生きる人間の倫理的課題を大局的にとらえる学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・現代の特質について、倫理的視点から大局的に理解し、自己の課題とつなげて人格の形成に生かす知識として身につけている。【知】
8			
9			

10	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚	第4節 近世町民文化と民衆の思想 1 町民の思想 2 農民の思想 第5節 国学と伝統文化 1 国学 2 日本の伝統文化 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省	・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいてとらえ、意欲的に探求している。【関】 ・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察している。【思】 ・収集した資料の中から、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観の特質を、自己とのかかわりにおいて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】
11		第2章 現代の日本と日本人としての自覚	後期中間考査
12	第5編 現代の諸課題と倫理	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容とその課題 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人間の福祉と国際社会	・現代の諸事象における倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題に対する関心が高まっている。【関】 ・現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見いだしている。【思】 ・収集した資料の中から、現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて追求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【資】 ・生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など、「生命」又は「環境」について、自然と人間とのかかわりを視点として、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】
	演習		

理科

教科名	理科	科目名	化学
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
履修学年	3年	類型等	理型
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	化学(東京書籍)	副教材等	リードα 化学(数研出版) 改訂版化学図録(フォトサイエンス)(数研出版)

①学習の目標

「無機物質」

物質の状態変化を酸・塩基、酸化還元反応、化学平衡と結びつけて理解し、探究する力を身につける。

「有機化合物・高分子化合物」

有機化合物の反応に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、構造と関連づけて化合物の性質を考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・演示実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認すること。

③学習に当たっての留意点

授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。また、化学基礎で学習する内容が基礎になるので、必要に応じて化学基礎の内容を復習しながら学習すること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

【関】

(2) 思考・判断

【思】 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的に総合的に考察し、科学的に判断する。

(3) 観察・実験の技能表現

観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。

【技】

(4) 知識・理解

観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

【知】

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点別項目を記入)
4	第5編 有機化合物		・有機化合物にはどんな特徴がみられるか。 ・有機化合物の分子式や構造式はどのように決めるか。 ・有機化合物はどんな性質を持ち、どんな反応がみられるか。 【関】 【思】
	第1章 有機化合物の特徴と構造	1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の構造式の決定	
5	第2章 炭化水素	1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素	・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】 アルカン・アルケン・アルキン アルコールとアルデヒド
	第3章 酸素を含む有機化合物	1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸とエステル 4 油脂とセッケン	
6	第4章 芳香族化合物	1 芳香族炭化水素 2 酸素を含む芳香族化合物 3 窒素を含む芳香族化合物	・芳香族化合物と脂肪族化合物の類似点と相違点を理解できたか。 【知】【思】

前期中間考査

7	第5章 有機化合物と 人間生活	1 食品 2 医薬品 3 染料 4 洗剤	<p>・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】</p> <p>アルカリ金属 2族、12族 鉄・銅・銀と化合物</p> <p>・典型元素の単体や化合物には、どんな性質がみられるか。</p> <p>・遷移元素の単体や化合物には、どんな性質がみられるか。</p> <p>【関】【思】</p>
8	第4編 無機物質		
	第1章 周期表と元素	1 周期表と元素	
9	第2章 非金属元素の 単体と化合物	1 水素と希ガス 2 ハロゲンとその化合物 3 酸素・硫黄とその化合物 4 窒素・リンとその化合物 5 炭素ケイ素とその化合物	
	第3章 典型金属元素の 単体と化合物	1 アルカリ金属とその化合物 2 2族の元素とその化合物 3 1、2族以外の典型金属元素とその化合物	
		前期期末考査	
	第4章 遷移元素の単体 と化合物	1 遷移元素とその化合物 2 金属イオンの分離	
10	第5章 無機物質と 人間生活	1 金属 2 セラミックス	
	第5章 生活と有機 化合物	第1節 医薬品 第2節 染料と洗剤 第3節 糖類とアミノ酸	
11	第5部 高分子化合物		
	第1章 高分子化合物の 分類と特徴	第1節 高分子化合物の分類と特徴	<p>・高分子化合物の性質と反応について、観察、実験の操作や記録の仕方を習得するとともに、実験操作が身についている。【技】</p> <p>・高分子化合物について、日常生活に関連づけて理解し、知識を身につけている。</p> <p>【知】</p> <p>・高分子化合物に関するさまざまな事象や、それらが生じる要因やしくみを科学的に考察できる。【思】</p> <p>・性質と反応に関する事物・現象に関心をもち、それらに関する概念や法則を意欲的に探究しようとする。【関】</p>
	第2章 合成高分子 化合物	第1節 合成繊維 第2節 プラスチック 第3節 ゴム	
	第3章 天然高分子 化合物	第1節 糖類 第2節 タンパク質 第3節 核酸 第4節 繊維	
		後期中間考査	
	第4章 生活と高分子 化合物	第1節 衣料 第2節 高分子化合物の利用	
	演習	センター試験に向けた演習	
1	演習	有機化合物の演習	

理 科

教科名	理科	科目名	発展化学
科目の目標	(1) 化学で学んだ体系化された知識に基づき、化学物質や化学反応を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2) 化学物質や化学反応を定量的に扱い、自ら論理的に思考・論述する力を養うことで、生徒の言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	理型
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	化学(東京書籍)	副教材等	改訂板フォトサイエンス化学図録(数研出版)

①科目の内容

- (1) 科学的な実験や観察、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用を通して、基本的な概念や原理・法則の個々の理解を深める。また、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る。
- (2) 合成化学の応用例を通して個々の原理・法則を系統的な理解にまで高め、複雑な反応・実験の全体像を把握しようとする姿勢と能力を育成する。

②学習の進め方

上記目標のとおり、授業中心に実験、レポート作成を行う。原理・法則等を系統的に理解し、論述できるよう学習した内容を確認すること。

③学習にあたっての留意点

授業時間内では、レポート作成や演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。また、化学基礎や化学で学習する内容を深めていくので、必要に応じて化学基礎や化学の内容を復習しながら学習すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。
- (2) 思考・判断 観察・実験などを通して、物質とその変化を化学的に探究し、論理的に考察する。
- (3) 観察実験の技能表現 観察・実験の技能を習得するとともに、物質の変化を化学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を的確に表現する。
- (4) 知識・理解 観察・実験などを通して物質の変化についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

⑤評価の方法

定期考査、授業や実験に取り組む姿勢・態度、レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	留意点
4 5 6 7	理論化学 3 8 8 5	物質の三態(状態変化, 気体, 液体, 固体の性質, 気体分子運動論) 熱化学 電気化学(電池, 電気分解) 反応速度 化学平衡	・実験や観察, 情報機器の適切な活用を通して, 化学物質や化学反応について, 化学的に思考し, レポートを作成することで論述力を育成する。 評価方法: 考査・レポート
8 9 10	無機化学 4 8 8	金属元素 非金属元素 周期律	・生活の中で, どのように化学が生かされているか, 化学で学んだ内容をふまえて, 化学的に探究し, 論述するようにする。 評価方法: 考査, レポート
11 12 1 2 3	有機化学 7 5 4	炭化水素 脂肪族化合物 芳香族化合物 高分子化合物	・無機物質, 有機化合物の発展的な実験を通して, データを定量的に分析し, 思考できる力を養う。 評価方法: レポート

理科

教科名	理科	科目名	物理
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
履修学年	3年	類型	理型・医進類型
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	物理（啓林館）	副教材等	セミナー物理(第一学習社)

①学習の目標

「熱」

ミクロな立場で分子の運動を力学的に解析し、圧力や内部エネルギーなど巨視的な物理量へと深化させる。

「電磁気」

力学と対比させた電場、電位の理解、電気回路、磁気などの基本的な理解に加え、イメージしにくい場面も扱

「原子分野」

原子、波動、電磁気などの知識からマクロの世界での物理を理解する。特に複雑な小一歩の理論を丁寧に理解させる。

②学習内容と授業の進め方

前期中間考査前後までは物理基礎の未習分野を学習し、基礎を盤石にすることを旨とする。授業を中心に解説・実験を行う。各分野ごとに演習を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

「物理」では、基本的な内容をメインで取り扱う。授業時間だけでは演習時間が十分に確保できないので、受験に対応する力をつけるため、各自が自主的・意欲的に家庭学習に取り組むことが求められる。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

- ・問題演習に積極的に取り組んだか。
- ・物理現象を「なぜそうなるのか」という疑問や好奇心をもてたか。【関】

(2) 思考・判断

- ・自然現象を物理的な見方ができ、数式を使って分析できたか。【思】

(3) 観察・実験の技能・表現

- ・観察、実験の技能を習得できたか。
- ・自然現象を物理的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現できたか。【技】

(4) 知識・理解

- ・自然現象を数式化する際に必要な知識を持っているか。
- ・日常生活の中の物理の関わりについて理解できたか。【知】

⑤評価の方法

- (1) 関心・意欲・態度……………授業態度、演習プリント、実験態度、実験プリント、ノート提出
- (2) 思考・判断……………定期テスト、演習プリント、実験プリント
- (3) 観察・実験の技能・表現……定期テスト、演習プリント、実験プリント
- (4) 知識・理解……………定期テスト、演習プリント

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目の記入)
4	第1部 様々な運動		・ボイル・シャルルの法則と状態方程式【関】 【思】【技】【知】 ・「球体における気体分子運動論」も扱う 【関】【思】【技】【知】
	第5章 気体分子の運動	第1節 気体の状態方程式 第2節 気体分子の熱運動 第3節 熱力学第1法則	
		第4節 気体の状態変化と熱・仕事	
5	第3部 電気と磁気		・より多くの熱サイクルのパターンを扱う。 【関】【思】【技】【知】 ・静電気力と電場を定式化し、様々な計算ができるか。【思】【技】【知】
	第1章 電界と電位	第2節 電界	
6			・前期中間考査
		第3節 電位 第1節 静電気	・電位の概念を理解し、それを定式化して、様々な計算ができるか。【関】【思】【技】【知】
7		第4節 コンデンサー	・より複雑なコンデンサーの回路の計算も扱う。場合によっては入試問題も扱う。【関】 【思】【技】【知】
8	第2章 電流回路	第1節 電流	・電流の定義を理解し、より複雑な直流回路の計算ができる。【関】【思】【技】【知】
		第2節 電流回路	
9			・前期期末考査
	第3章 電流と磁界	第1節 磁気力と磁界 第2節 電流がつくる磁界	・磁場の定義や電流が磁場をつくることを理解し、定式化ができる。【関】【思】【技】【知】
		第3節 電流が磁界から受ける力 第4節 ローレンツ力	・電流が磁界から受ける力について、定量的に扱えるか。 ・ホール効果に関連して、半導体の振舞いが定性的に理解できる。【関】【思】【技】【知】
10	第2章 電流回路	第3節 半導体	・電磁誘導のパターンを数多く扱う。【関】【思】【技】【知】
	第4章 電磁誘導と電磁波	第1節 電磁誘導の法則 第2節 磁界中を運動する導体の棒	
11		第3節 自己誘導と相互誘導	・定量的に扱えるか。【関】【思】【技】【知】
			・後期中間考査
		第4節 交流 第5節 電気振動と電磁波	・交流について、定量的に扱えるか。 ・電磁波の定性的理解【関】【思】【技】【知】
12	第4部 原子・分子の世界		・前期量子論について理解し、定式化できる。【関】【思】【技】【知】
	第1章 電子と光	第1節 電子の電荷と質量 第2節 光の粒子性 第3節 X線 第4節 粒子の波動性 第5節 光の粒子性	
	第2章 原子・原子核・素粒子	第1節 原子モデル 第2節 放射線と原子核 第3節 原子核反応と核エネルギー	
1		第4節 素粒子と宇宙	
1		第4節 素粒子と宇宙	

理科

教科名	理科	科目名	発展物理
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
履修学年	3年	類型	理型・医進類型
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	物理（啓林館）	副教材等	セミナー物理（第一学習社）

①学習の目標

「熱」

ミクロな立場で分子の運動を力学的に解析し、圧力や内部エネルギーなど巨視的な物理量へと深化させる。

「電磁気」

力学と対比させた電場、電位の理解、電気回路、磁気などの基本的な理解に加え、イメージしにくい場面も扱

「原子分野」

光子、波動、電磁気などの知識からアールの小さな世界での物理を理解する。特に複雑なアールの理論をさ
たし、理解させる

②学習内容と授業の進め方

前期中間考査前後までは物理基礎の未習分野を学習し、基礎を盤石にすることを旨とする。授業を中心に解説・実験を行う。各分野ごとに演習を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

「物理」では、基本的な内容をメインで取り扱う。授業時間だけでは演習時間が十分に確保できないので、受験に対応する力をつけるため、各自が自主的・意欲的に家庭学習に取り組むことが求められる。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

- ・問題演習に積極的に取り組んだか。
- ・物理現象を「なぜそうなるのか」という疑問や好奇心をもてたか。【関】

(2) 思考・判断

- ・自然現象を物理的な見方ができ、数式を使って分析できたか。【思】

(3) 観察・実験の技能・表現

- ・観察、実験の技能を習得できたか。
- ・自然現象を物理的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現できたか。【技】

(4) 知識・理解

- ・自然現象を数式化する際に必要な知識を持っているか。
- ・日常生活の中の物理の関わりについて理解できたか。【知】

⑤評価の方法

- (1) 関心・意欲・態度……………授業態度、演習プリント、実験態度、実験プリント、ノート提出
- (2) 思考・判断……………定期テスト、演習プリント、実験プリント
- (3) 観察・実験の技能・表現……定期テスト、演習プリント、実験プリント
- (4) 知識・理解……………定期テスト、演習プリント

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目の記入)
4	第1部 様々な運動		・ボイル・シャルルの法則と状態方程式【関】 【思】【技】【知】
	第5章 気体分子の運動	第1節 気体の状態方程式	
		第2節 気体分子の熱運動	・「球体における気体分子運動論」も扱う
5		第3節 熱力学第1法則	【関】【思】【技】【知】
		第4節 気体の状態変化と熱・仕事	・より多くの熱サイクルのパターンを扱う。 【関】【思】【技】【知】
	第3部 電気と磁気		・静電気力と電場を定式化し、様々な計算 ができるか。【思】【技】【知】
6	第1章 電界と電位	第2節 電界	
		第3節 電位	・電位の概念を理解し、それを定式化して、 様々な計算ができるか。【関】【思】【技】【知】
7		第1節 静電気	
		第4節 コンデンサー	・より複雑なコンデンサーの回路の計算も扱 う。場合によっては入試問題も扱う。【関】 【思】【技】【知】
8	第2章 電流回路	第1節 電流	・電流の定義を理解し、より複雑な直流回路 の計算ができる。【関】【思】【技】【知】
		第2節 電流回路	
9			・前期中間考査
	第3章 電流と磁界	第1節 磁気力と磁界	・磁場の定義や電流が磁場をつくることを理 解し、定式化ができる。【関】【思】【技】【知】
		第2節 電流がつくる磁界	
	第3節 電流が磁界から受ける力	・電流が磁界から受ける力について、定量的に 扱えるか。	
10		第4節 ローレンツ力	・ホール効果に関連して、半導体の振舞いが定 性的に理解できる。【関】【思】【技】【知】
	第2章 電流回路	第3節 半導体	
	第4章 電磁誘導と電磁波	第1節 電磁誘導の法則	・電磁誘導のパターンを数多く扱う。【関】【思】 【技】【知】
第2節 磁界中を運動する導体の棒			
11		第3節 自己誘導と相互誘導	・定量的に扱えるか。【関】【思】【技】【知】
			・後期中間考査
		第4節 交流	・交流について、定量的に扱えるか。
12		第5節 電気振動と電磁波	・電磁波の定性的理解【関】【思】【技】【知】
	第4部 原子・分子の世界		・前期量子論について理解し、定式化でき る。【関】【思】【技】【知】
	第1章 電子と光	第1節 電子の電荷と質量	
第2節 光の粒子性			
第3節 X線			
第4節 粒子の波動性			
第5節 光の粒子性			
第2章 原子・原子核 ・素粒子	第1節 原子モデル	・原子核の崩壊について理解し、半減期の 計算ができる。【関】【思】【技】【知】	
	第2節 放射線と原子核		
	第3節 原子核反応と核エネルギー		
1		第4節 素粒子と宇宙	

理 科

教科名	理科	科目名	生物
科目の目標	(1)生物と遺伝子、生物の体内環境の維持や多様性を理解する。 (2)生物や生命現象について、生物学的な探究の態度、思考力を深める。		
履修学年	3年	類型	
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	高等学校 生物(第一学習社)	副教材等	リードα 生物(数研出版) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1)生物体を構成する各器官が連絡しあいながら、全体として秩序ある状態を維持していることを理解し、生物体の反応や行動を日常生活と関連付けて考察できるようにする。
- (2)生物の集団内で、それぞれの個体はどのようにに関わり合い、生活しているのか探究する。また、多様な生態系はどのような特徴をもっているかを理解し、多様性の概念を考察できるようにする。
- (3)生物の進化の過程を理解し、現在の多種多様な生物界ができたかを探究する。これらの生物はどのような特徴に基づいて分類されるのか考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1)授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2)実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- (1)関心・意欲・態度
【関】 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
- (2)思考・判断
【思】 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。
- (3)観察・実験の技能表現
【技】 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。
- (4)知識・理解
【知】 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	第7章 植物の環境応答	(1)植物の環境応答と植物ホルモン (2)植物の環境応答とそのしくみ	・植物の環境の変化に対応する様々なしくみを理解しているか。【関】【思】 ・動物が刺激を受容し、行動するかを理解しているか。【関】【思】 ・神経や筋肉のしくみにおいて実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。 【技】
5	第8章 動物の反応と行動	(1)刺激の受容と反応 (2)動物の行動	
6	第9章 個体群と生物群集	(1)個体群 (2)生物群集	前期中間考査
7			・同種の個体間、他種の生物間での様々な関係について理解できたか。【関】【思】
8	第10章 生態系	(1)生態系の物質生産 (2)生態系と生物多様性	・多様な生態系のしくみについて理解できたか。【関】【思】
9			前期期末考査
10	第11章 生物の進化	(1)進化のしくみ (2)生物の起源と生物の変遷	・進化の過程と生物の類縁関係について理解できたか。【技】【知】
11			
12	第12章 生物の系統	(1)生物の分類の変遷と系統 (2)生物の系統関係	後期中間考査
1	総合演習		
2			
3			

理 科

教科名	理科	科目名	発展生物
科目の目標	(1) 生物で学んだ体系化された知識に基づき、自然の事物・現象を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2) 生物や生命現象を分子レベルで論理的に論述する力を養うことで、言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	高等学校 生物(第一学習社)	副教材等	リードα 生物(数研出版) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 生命現象を物質の反応として理解し、生化学の視点から考察できるようにする。
- (2) 生物の各分野について、発展的な実験や観察を通して結果を分析、探究し、思考できるようにする。
- (3) 生物や生命現象を論理的に論述する力を養う。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2) 実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】
- (2) 思考・判断
【思】
- (3) 観察・実験の技能表現
【技】 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。
- (4) 知識・理解
【知】 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	生命現象と物質	細胞と分子	遺伝子の分野の発展的な実験や観察を通して成果を分析、探究し、思考できる【関】【思】【技】【知】。前期中間考査、小テスト、提出レポート
5		同化と異化	
6		DNAと遺伝情報の発現	
7	生殖と発生	有性生殖と無性生殖	発生の領域の発展的な実験や観察を通して成果を分析、探究させ、思考力や判断力を育成する【関】【思】【技】【知】。前期末考査、小テスト、提出レポート
8		動物の発生	
9		植物の発生	
10	生物と環境	植物の環境応答	動物の反応の発展的な実験や観察を通して成果を分析、探究し、思考できる【関】【思】【技】【知】。後期中間考査、小テスト、提出レポート
11		動物の反応と行動	
12		生物群集と生態系	
1	進化と系統	進化のしくみ 生物の起源と生物界の変遷 生物の系統関係	進化や生物の起源の分野の発展的な実験や観察を通して成果を分析、探究し、思考できる【関】【思】【技】【知】。小テスト、提出レポート

理 科

教科名	理科	科目名	自然科学研究(生物分野)
科目の目標	(1) 生物基礎で学んだ体系化された知識に基づき、自然の事物・現象を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2) 日常生活や社会との関連の深い生物現象を論理的に論述する力を養うことで、言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	3単位	履修形態	選択
教科書	高等学校 生物基礎(第一学習社)	副教材等	リードα 生物基礎(数研出版) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 自然の事物・現象を物質の反応として理解し、生化学の視点から考察できるようにする。
- (2) 生物基礎の各分野について、実験や観察を通して結果を分析、探究し、思考できるようにする。
- (3) 生物や生命現象を論理的に論述する力を養う。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2) 実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
- (2) 思考・判断
【思】 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。
- (3) 観察・実験の技能表現
【技】 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。
- (4) 知識・理解
【知】 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	生物と遺伝子	生物の特性	「生物基礎」で学習した内容に基づき、遺伝子分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】 【思】【技】【知】。前期中間考査、提出レポート
5		細胞とエネルギー	
6		遺伝現象と遺伝子	
7	生物の体内環境	体内環境と恒常性	「生物基礎」で学習した内容に基づき、恒常性分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】 【思】【技】【知】。前期末考査、提出レポート
8		生体防御	
9		自律神経とホルモン	
10	生物の多様性	バイオームの形成過程	「生物基礎」で学習した内容に基づき、バイオームなどの発展項目を考察、思考することができる【関】【思】 【技】【知】。後期中間考査、提出レポート
11		バイオームと生物の多様性	
12		バイオームとその分布	
1	生態系と保全	生態系の成り立ち	「生物基礎」で学習した内容に基づき、生態系分野などの発展項目を考察、思考することができる【関】 【思】【技】【知】。小テスト、提出レポート
		物質循環とエネルギーの流れ 自然環境の保全	

理 科

教科名	理科	科目名	自然科学研究(地学分野)
科目の目標	(1)地球や宇宙に起こる現象についての概念や原理、法則の理解を深める。 (2)地球と宇宙に関する事柄の、時間的及び空間的なスケールを正しく理解する方法を学ぶとともに、それらを分析的、総合的に考察する能力と態度を身に付ける。 (3)観察や実験を通して、自然と人間の関わりについての科学的な理解と認識を確かなものにする。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	3単位	履修形態	選択
教科書	地学基礎(啓林館)	副教材等	センサー地学基礎(啓林館) ニューステージ地学図表

①学習の目標

地球や宇宙に起こる現象についての概念や原理、法則の理解を深め、正しく理解する方法を学ぶとともに、それらを分析的、総合的に考察する能力と態度を身に付ける。
観察や実験を通して、上記の学習を深め、自然と人間の関わりについての科学的な理解と認識を確かなものにする。

②学習内容と授業の進め方

授業中心に解説・実験・問題演習を行う。

③学習に当たっての留意点

- (1)授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2)実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- (1)関心・意欲・態度
【関】 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
- (2)思考・判断
【思】 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。
- (3)観察・実験の技能表現
【技】 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。
- (4)知識・理解
【知】 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	宇宙における地球	宇宙の構成 太陽 太陽系の中の地球	前期中間考査 提出レポート
5			
6			
7	活動する地球	地球の姿 火山活動 地震	提出レポート 前期末考査 提出レポート
8			
9			
10	移り変わる地球	地層や岩石と地質構造 地球環境と生物界の変遷	後期中間考査 提出レポート
11			
12			
1	大気と海洋 地球の環境	地球の熱収支 大気と海洋の運動 地球環境の科学 自然環境	小テスト 提出レポート

理 科

教科名	理 科	科目名	自然科学研究(化学)
科目の目標	(1)化学基礎で学んだ体系化された知識に基づき、自然の事物・現象を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2)日常生活や社会との関連の深い物質とその変化を化学的に探究し、論理的に論述する力を養うことで、生徒の言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	文型
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書		副教材等	ベストフィット化学基礎NewEdition(実教出版) 改訂フォトサイエンス化学図録(数研出版)

①科目の内容

(1)化学基礎との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念や原理・法則の個々の理解を深める。
 (2)日常生活や社会と関連する物質とその変化を理解させ、化学と人間生活、物質の構成、物質の変化についての化学的な見方や考え方を深化させる。また、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る。

②学習の進め方

上記目標のとおり、授業中心に実験、レポート作成や発表を行う。原理・法則等を系統的に理解し、論述できるよう学習した内容を確認すること。

③学習にあたっての留意点

授業時間内では、レポート作成や演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。また、化学基礎で学習する内容を深めていくので、必要に応じて化学基礎の内容を復習しながら学習すること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。
(2) 思考・判断	観察・実験などを通して、物質とその変化を化学的に探究し、論理的に考察する。
(3) 観察実験の技能表現	観察・実験の技能を習得するとともに、物質の変化を化学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を的確に表現する。
(4) 知識・理解	観察・実験などを通して物質の変化についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、実験や発表に取り組む姿勢・態度、発表やレポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥年間計画

月	時数	単元名	具体的な学習内容	留意点
4 5 6 7	4 4 6 3	物質の構成粒子と化学結合	・物質の性質と化学結合 (イオン結晶, 分子結晶, 共有結合の結晶, 金属結晶)	・実験・観察では, 化学的に探究し, 報告書や発表会で論理的に表現させることで, 言語活動の充実を図る。 ・実験・観察: 全観点の評価 ・報告書, 発表会: 関心意欲態度, 思考判断の評価 ・定期考査: 思考判断, 知識理解の評価 5月: 実験・観察 6月: 定期考査 6月: 報告書 7月: 発表会
7 8	2 3	化学変化と量的関係	・化学変化の量的関係	・身の回りの化学反応を定量的に論述できるようにする。
9 10 11 12 1 2	5 6 5 4 3 3	化学変化と量的関係	・酸と塩基 (中和反応, pH, 中和滴定) ・酸化還元反応 (酸化剤・還元剤, 酸化還元滴定, イオン化傾向)	・化学変化の量的関係, 酸・塩基, 酸化還元反応の発展的な実験を通して, その結果を化学的に探究し, 論述できるようにする。 ・実験・観察: 全観点の評価 ・レポート: 化学的な思考判断の評価 ・定期考査: 思考判断, 知識理解の評価 9月: 定期考査 10月: 実験・観察, レポート 11月: 定期考査 12月: 実験・観察, レポート 1月: レポート

英語科

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。		
履修学年	3年	類型	
単位数	4単位	履修形態	必修
教科書	PRO-VISION English Communication III	副教材等	

①学習の目標

(1) 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

(2) 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

(3) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。

(4) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

②学習内容と授業の進め方

(1) 単語や熟語を辞書等で調べる。

(2) 文章の意味や内容を考え、それに合ったリズムやイントネーションなどを意識して英文を音読する。

(3) 英語を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握する。

(4) 発話や音声教材を聞いて、情報や話し手の意向を理解する。

(5) 語彙や文法事項を理解し、それを活用して情報や考えを伝える。

③学習に当たっての留意点

(1) 十分な準備をして授業に臨むこと。

(2) 教科書・ノート・辞書等を活用し、授業内容の理解に努めること。

(3) 授業内容は必ず復習し、知識の定着を図ること。

(4) 週末課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

④評価の観点

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

(2) 外国語表現の能力

英語で話したり、書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。

(3) 外国語理解の能力

英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。

(4) 言語や文化についての知識・理解

英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

⑤評価の方法

基本的に次の項目を総合して評価する。

(1) 定期考査の結果

(2) 週末課題の提出状況

(3) 小テストの結果

(4) 授業への参加状況(ペアワークやグループワーク、発表など)

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	Lesson 1 Speak Out for the Future	・カナダの環境問題活動家セヴァン・スズキさんが、2012年6月にリオデジャネイロで開催された地球サミットで行ったスピーチを読む。 ・パラグラフの構成	【関心・意欲・態度】 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 【表現の能力】 ・情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 ・情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。
	Lesson 2 The Art of Choosing	・人生は選択によって作られていく。納得のいく選択をするために必要な考え方を、筆者の考察を通じて学習する。 ・パラグラフの展開—比較・対照	
5	Lesson 3 Running Out of Water	・世界の人口が増え続ける中、世界各地で深刻な水不足が起こりつつある。水不足の現状と、それを乗り越えるための取り組みについて学ぶ。 ・パラグラフの展開—問題・解決	【理解の能力】 ・英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 【知識・理解】 ・英語の仕組み、使われていることばの意味や働きなどを理解するとともに、言語の背景にある文化を理解している。 【前期中間考査／課題の提出／小テスト／授業に対する意欲／発表】
	Lesson 4 Ansel Adams: Celebrating America's Wilderness	・自分の作品と精力的な環境保護活動を通して、自然と人間の調和と共存というビジョンを広め、人々の自然保護の意識を高めた写真家、アンセル・アダムスの話を読む。 ・パラグラフの展開—原因・結果	
6	Lesson 5 Cleaning Up the Trash in Space	・使われなくなった人工衛星や、ロケットの残骸などの「宇宙ゴミ」が引き起こしている様々な問題を学習する。 ・パラグラフの展開—分類	【関心・意欲・態度】 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 【表現の能力】 ・情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 ・情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。
	Lesson 6 Glove Boy	・ある日、手話で会話をする女子高生を見て、手話なしでコミュニケーションができる手袋を発明したライアン。好きなことを追求した少年の成功譚。 ・パラグラフの展開—時間順	
7	Lesson 7 How Language Shapes Thought	・様々な実験結果を通じて、言語が認識や思考に大きな影響を与えていることがわかった。言語を研究する意味について考える。 ・パラグラフの展開—例示	【理解の能力】 ・英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 【知識・理解】 ・英語の仕組み、使われていることばの意味や働きなどを理解するとともに、言語の背景にある文化を理解している。 【前期期末考査／課題の提出／小テスト／授業に対する意欲／発表】
8			
9	Lesson 8 Hayashi Eitetsu: The Man Who Raised Drumming to an Art Form	・太鼓奏者林英哲氏による奏法は、世界の人々を魅了している。日本の伝統芸能を芸術に昇華した林英哲氏について学ぶ。	【知識・理解】 ・英語の仕組み、使われていることばの意味や働きなどを理解するとともに、言語の背景にある文化を理解している。 【前期期末考査／課題の提出／小テスト／授業に対する意欲／発表】
	Lesson 9 Buildings Have Meaning	・私たちが家の中で安らぎを感じるの、自分の中にある感覚が大きく関係している。「建築」を物質的な側面からでなく、心理的・文化的な側面から考察する。	

10	Lesson 10 The Discovery of DNA 補助教材	<ul style="list-style-type: none"> ・科学史を塗り替えたDNAの二重らせん構造発見の経緯と、その後の遺伝子工学の発展について学ぶ。 ・速読を目的としたプリント学習 ・精読を目的としたテキスト講読 ・入試問題演習 <p>【主な言語材料】既習事項の復習 【評価の観点項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの構成と論旨の展開方法を理解している。 ・文章の内容をまとめることができる。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 <p>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 ・情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。
11	補助教材	<ul style="list-style-type: none"> ・速読を目的としたプリント学習 ・精読を目的としたテキスト講読 ・入試問題演習 <p>【主な言語材料】既習事項の復習 【評価の観点項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの構成と論旨の展開方法を理解している。 ・文章の内容をまとめることができる。 	<p>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の仕組み、使われていることばの意味や働きなどを理解するとともに、言語の背景にある文化を理解している。
12	補助教材	<ul style="list-style-type: none"> ・速読を目的としたプリント学習 ・精読を目的としたテキスト講読 ・センター問題演習 <p>【主な言語材料】既習事項の復習 【評価の観点項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの構成と論旨の展開方法を理解している。 ・文章の内容をまとめることができる。 	<p>【後期中間考査／課題の提出／小テスト／授業に対する意欲／発表】</p>
1	補助教材	<ul style="list-style-type: none"> ・速読を目的としたプリント学習 ・精読を目的としたテキスト講読 ・入試問題演習 	

英語科シラバス

教科名	外国語	科目名	アドバンス
科目の目標	様々な情報や考えなどを場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばす。		
履修学年	3年	学科・コース	普通科
単位数	3単位	授業形態	一斉授業
教科書	英語構文・英作文問題集	副教材等	なし

①学習の目標

- 1) 聞いたり読んだりした内容についてその概要や要点を書いたり、あるいは自分の考えや意見を整理して書く。
- 2) 基本的な演習を通して入試レベルの表現力に習熟する。
- 3) ライティング能力を活用して積極的にコミュニケーションを図る態度を身につける。
- 4) 日本語との発想の違いを理解する。

②学習内容と授業の進め方

- 1) さまざまな入試過去問題を通じてライティングの基礎力、応用力をに身につける。
- 2) 暗唱すべき文を音読を通して確実に覚える。

③学習に当たっての留意点

- 1) 各レッスンの暗唱例文は必ず暗記しておくこと。
- 2) 予め該当問題を行い、授業に臨むこと。特に和文英訳については必ず自分の模範解答を書くようにすること。
- 3) 授業内容は必ず復習し、模範解答文を暗唱できるまで覚え込むこと。
- 4) 自分や他人の誤りを通して正しい英文を書く力を身につけること。

④評価の方法

基本的には次の項目を総合して評価する。

- 1) 定期考査の結果
- 2) 小テストの結果
- 3) 授業への参加状況
- 4) 課題の提出状況

⑤授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法	
4	ライト英作文		前期中間考査/ 小テスト/ 授業への 参加状況/ 課題の 提出状況等	
	L7	譲歩・対立		
	L8	否定		
	L9	比較・比例		
5	L10		前期末考査/ 小テスト/ 授業への 参加状況/ 課題の 提出状況	
	L11	関連・除外・様態		
	L12	受身・使役・可能		
	L13	時間・数量・習慣		
	L14	強調・疑問・推測		
	L15	当然・助言・命令		
6	1. 基本時制	現在形、過去形、未来形、進行形等の基本時制	前期末考査/ 小テスト/ 授業への 参加状況/ 課題の 提出状況	
	2. 受動態	受動態の基本、経験受動態、慣用的な表現		
	3. 完了形	現在完了形、過去完了形、未来完了形等		
	4. 助動詞	種々の助動詞の用法。助動詞+have+過去分詞		
	5. 名詞・代名詞	指示語、不定代名詞、再帰代名詞、慣用的な表現		
	7	6. 重要動詞		重要基本動詞の用法の確認、句動詞
		7. 不定詞		名詞的、形容詞的、副詞的用法、慣用的表現
		8. 分詞		現在分詞、過去分詞用法(叙述/限定)、分詞構文

8	9. 動名詞 10. 否定 9 11. 比較 12. 関係詞 13. 仮定法 14. 前置詞 10 15. 名詞節 16. 副詞節1	動名詞のさまざまな用法、慣用的な表現 準否定、部分否定、否定の慣用表現等 原級、比較級、最上級を使った比較表現 関係代名詞、関係副詞、複合関係詞等 仮定法過去、仮定法過去完了、wishの後の仮定法、 as ifの後の仮定法等 各種の前置詞の用法 さまざまな名詞節構文、 強調構文	後期中間考査/ 小テスト/ 授業への 参加状況/ 課題の 提出状況
11 12	17. 副詞節2 センター問題 自由英作文	時、原因、理由、結果を表す副詞節の用法 条件、目的、譲歩、限定、様態を表す副詞節の用法 センター問題に挑戦 テーマ設定のもと、100語程度のパラグラフ文に挑戦	

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1)自ら体力の向上と把握に務める。 (2)自主自立の精神とリーダーの育成。 (3)健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	3年	類型	男子
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書		副教材等	

① 学習の目標

- (1)各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2)自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3)安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4)グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1)個人種目では、全体指導や個別指導で記録や技能の向上をめざす。
- (2)球技等集団種目では、習得した基礎技能やルールを活かし、戦術を立てて活動する。

③ 学習の留意点

- (1)新しい種目については、自己の記録や技能の向上をめざし積極的に活動する。特に基礎技能の反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2)1・2年からの継続種目については、チームで中間の技能を活かした戦術を立て試合を運営する。
- (3)自分の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (4)チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (5)準備、後かたづけを協力してしっかりと行う。
- (6)常に安全面に配慮し、活動する。

④ 評価の観点

(1)関心・意欲・態度
【関】	運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
(2)思考・判断
【思】	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行いな活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指し判断している。
(3)運動の技能
【技】	自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうを高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。
(4)知識・理解
【知】	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけた健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につ

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論3時間	・運動によるけが、病気の予防	
4 5 6	陸上(やり投げ・ターボジャブ) 体づくり運動 6時間	・ストレッチや体力向上トレーニング ・新体力テスト ・立ち投げの練習 ・助走の練習 ・助走からの投げの練習 ・計測	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・投げの方向性、助走のリズムなど、矯正しようとしているか。【思】 ・記録を計測し、換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】

4 5 6	バスケットボール 7時間	<ul style="list-style-type: none"> ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ゲームでのプレーを評価する。【技】 ・ルールを理解し、自分たちでゲームを運営できるか。【知】
6 7 8	水泳 6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「クロール」または「平泳ぎ」で100m完泳を目指す。 ・技能の高い者は、「背泳ぎ」で25m、「バタフライ」で25m完泳を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・合理的な泳ぎを追求しているか。【思】 ・それぞれの目標をどこまで達成できたか、評価表に基づき評価する。【技】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
7 8 9 10 11	バレーボール 8時間	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ゲームでのプレーを評価する。【技】 ・ルールを理解し、自分たちでゲームを運営できるか。【知】
9 10	長距離6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000M、5000Mの計測。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録を向上させようとして意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・5000mタイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
	体育理論3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・運動によるけが、病気の予防 	
10 11 12	選択 17時間	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、ソフトボール、テニス、卓球、バドミントンなどをリーダーを決め、自主的に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようとしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1)自ら体力の向上と把握に務める。 (2)自主自立の精神とリーダーの育成。 (3)健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	3年	類型	女子
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書		副教材等	

① 学習の目標

- (1)各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2)自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3)安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4)グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1)個人種目では、全体指導や個別指導で記録や技能の向上をめざす。
- (2)球技等集団種目では、習得した基礎技能やルールを活かし、戦術を立てて活動する。

③ 学習の留意点

- (1)新しい種目については、自己の記録や技能の向上をめざし積極的に活動する。特に基礎技能の反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2)1・2年からの継続種目については、チームで中間の技能を活かした戦術を立て試合を運営する。
- (3)自分の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (4)チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (5)準備、後かたづけを協力してしっかりと行う。
- (6)常に安全面に配慮し、活動する。

④ 評価の観点

(1)関心・意欲・態度
【関】	運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。
また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
(2)思考・判断
【思】	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指して判断している。
(3)運動の技能
【技】	自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうととを高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。
(4)知識・理解
【知】	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけてまた健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につけ

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論3時間	・運動によるけが、病気の予防	
4 5 6	陸上(円盤投) 体づくり運動 6時間	・ストレッチや体力向上トレーニング 新体力テスト 回転のかけ方の練習(転がし、投げ上げ) ・投げ方の練習 ・記録計測	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・回転のかけ方、投げるフォームなど、矯正しようとしているか。【思】 ・記録計測 換算表にもとづき評価する。 【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】

4 5 6	バスケットボール 7時間	<ul style="list-style-type: none"> ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ゲームでのプレーを評価する。【技】 ・ルールを理解し、自分たちでゲームを運営できるか。【知】
6 7 8	水泳 6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「クロール」または「平泳ぎ」で100m完泳を目指す。 ・技能の高い者は、「背泳ぎ」で25m、「バタフライ」で25m完泳を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・合理的な泳ぎを追求しているか。【思】 ・それぞれの目標をどこまで達成できたか、評価表に基づき評価する。【技】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
6 7 8 9	バレーボール 8時間	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ゲームでのプレーを評価する。【技】 ・ルールを理解し、自分たちでゲームを運営できるか。【知】
9 10	長距離6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000Mの計測。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録を向上させようとして意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・3000mタイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
	体育理論3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・運動によるけが、病気の予防 	
10 11 12	選択 17時間	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、ソフトボール、テニス、卓球、パドミントンなどのリーダーを決め、自主的に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようとしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】

芸術科

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅱ
科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する信条を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
履修学年	3年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	選択
教科書	音楽Ⅱ Tutti(教育出版)	副教材等	適宜

①学習の目標

- (1) 音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解し演奏・歌うこと。
- (2) 音楽的な感性を高め、表現したり鑑賞する能力を養う。
- (3) 曲想を楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって演奏すること。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 表現分野では、世界の歌を通して基本唱法を修得する。
- (2) 鑑賞分野では、交響曲や歌劇、ミュージカルなど幅広く映像を通して鑑賞する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 歌唱においては、基本を大切に発声や歌い方を学ぶこと。
- (2) 我が国や諸外国の文化への理解を深めること。
- (3) いろいろな作品との出会いから、新たな発見と感動を体験すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力
【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 表現分野では、実技テストを実施し、発声法や表現などを評価する。
- (2) 日常の学習活動への参加態度を評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 9	歌唱	歌唱指導 落葉松 シャンソン「愛の讃歌」 ソルヴェイルの歌	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】
	楽典	超判定、新曲試唱、聴音 関係調、五度圏、調号、 音階(長調、短調(自然、和声、旋律短音階))	
	鑑賞	鑑賞指導 人形浄瑠璃(文楽)「国性筋合戦」 天使にラブソングを その他	
10 3	器楽	管楽器、鍵盤楽器の練習 アーバン、ショパンエチュード、リストエチュード 課題曲、自由曲、試験曲の練習 総合発表会、スケール練習など	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】
	鑑賞	吹奏楽のための「深層の祭り」 その他	